

第2章

調査結果

第2章 調査結果

1 体格 (BMIの状況)

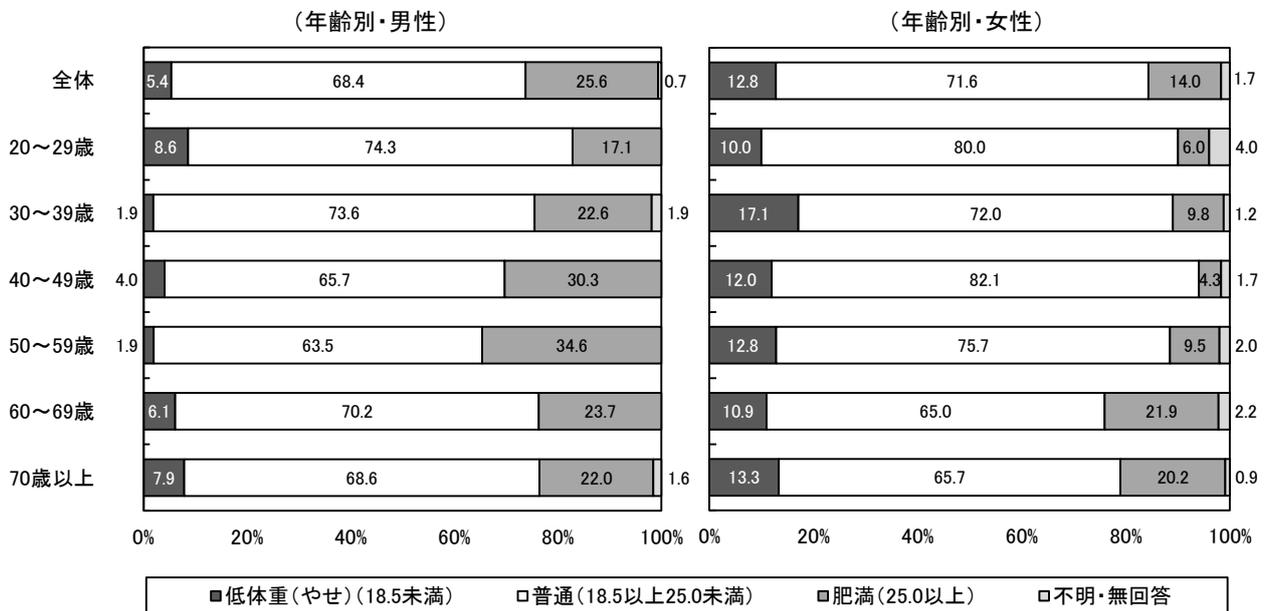
問6 あなたの身長と体重を記入してください。

男性の3割弱が肥満 (BMI25.0以上)、女性の1割強が低体重 (やせ) (BMI18.5未満)

男性では、肥満 (BMI25.0以上) 者の割合が50歳代 (34.6%) で4割弱と最も高く、以下40歳代 (30.3%)、60歳代 (23.7%) となっている。

女性では、肥満 (BMI25.0以上) 者の割合は60歳代 (21.9%) で2割強と最も高くなっている。一方、低体重 (やせ) (BMI18.5未満) 者の割合は、30歳代 (17.1%) が2割弱で高くなっている。

図1.1 BMIの区分による肥満・普通・やせの者の割合



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

BMI = 体重 [kg] ÷ 身長 [m] ÷ 身長 [m] により算出
 BMI < 18.5 低体重 (やせ)
 18.5 ≤ BMI < 25.0 普通体重 (正常)
 25.0 ≤ BMI 肥満

2 「食育」に対する意識

「食育」とは

「食育」は、心身の健康増進と豊かな人間形成のために、食に関する知識や食を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践することができるひとを育てることです。その中には、規則正しい食生活や栄養バランスのとれた食事などを実践したり、食を通じたコミュニケーションやマナー、あいさつなどの食に関する基礎を身に付けたり、自然の恵みへの感謝や伝統的な食文化などへの理解を深めたりすることが含まれます。

(1) 「食育」への関心度

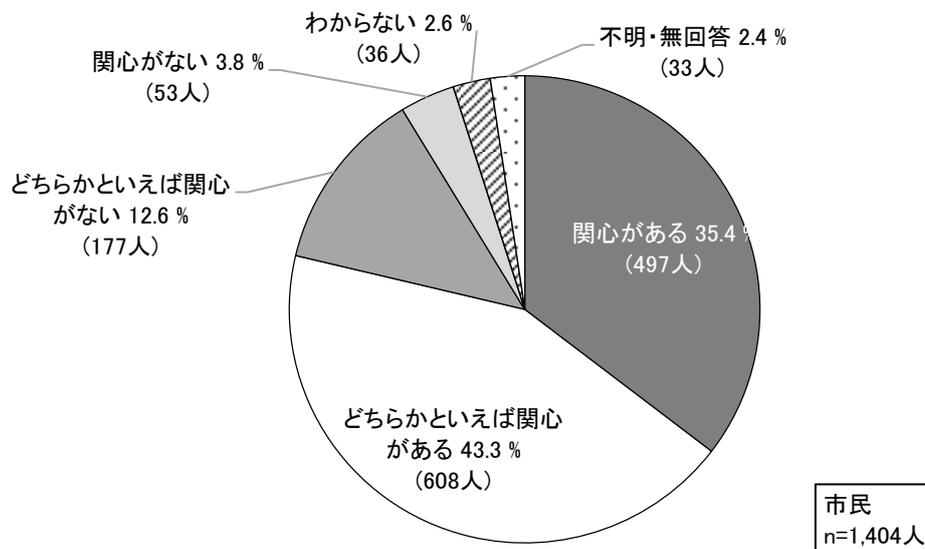
問7 あなたは、食（食事や食習慣）に関心がありますか。（○は1つだけ）

8割弱が「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答

「関心がある」(35.4%)、「どちらかといえば関心がある」(43.3%)と回答した人を合わせた割合は8割弱(78.7%)となっている。

一方、「関心がない」(3.8%)、「どちらかといえば関心がない」(12.6%)と回答した人を合わせた割合は2割弱(16.4%)となっている。

図 2.1 「食育」への関心度



【性別・年齢別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は、男性（74.1%）に対し女性（82.8%）の方が高くなっている。特に30歳代および60歳代の女性で高く、9割弱となっている。

図 2.1-2 「食育」への関心度（年齢別・全体）

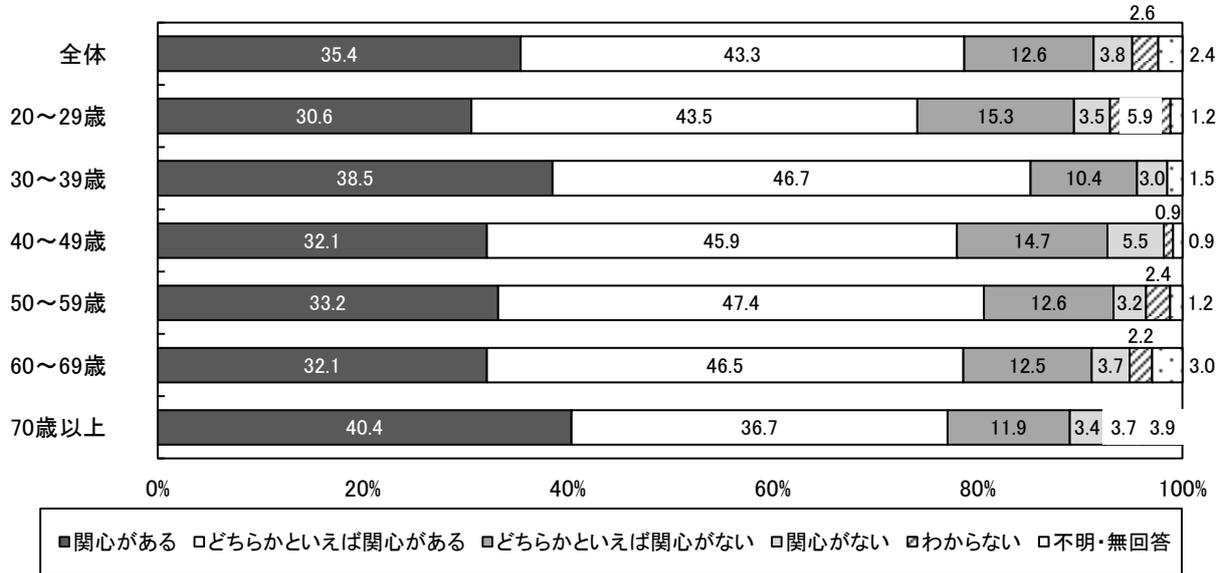
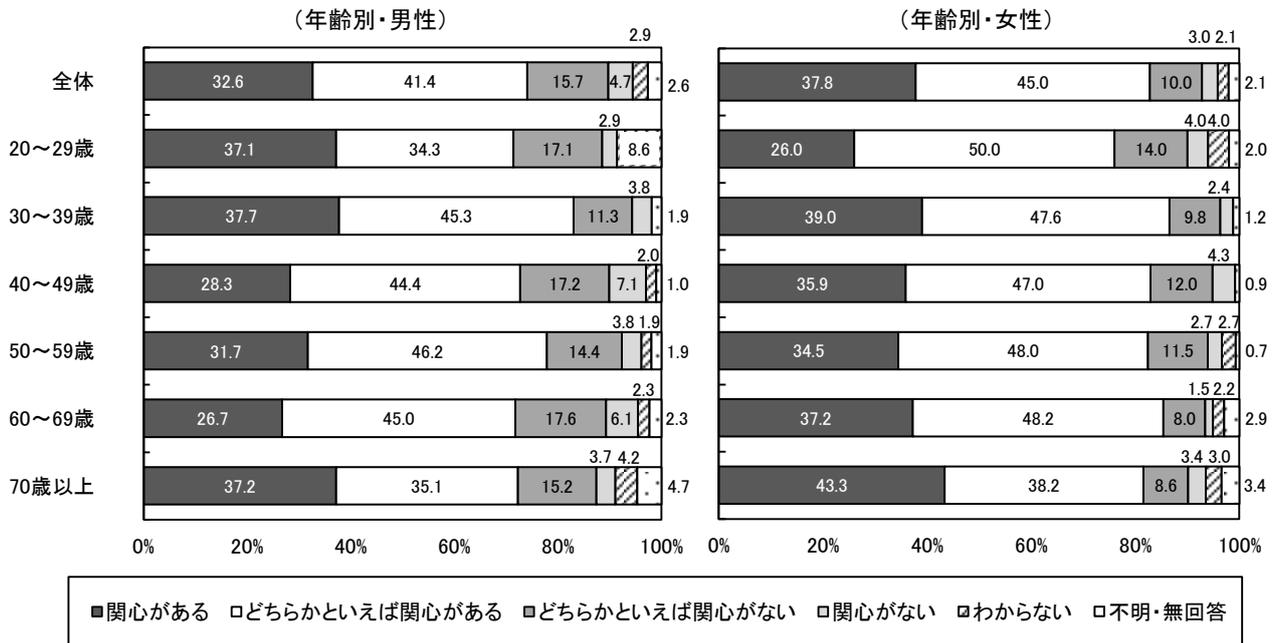


図 2.1-3 「食育」への関心度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

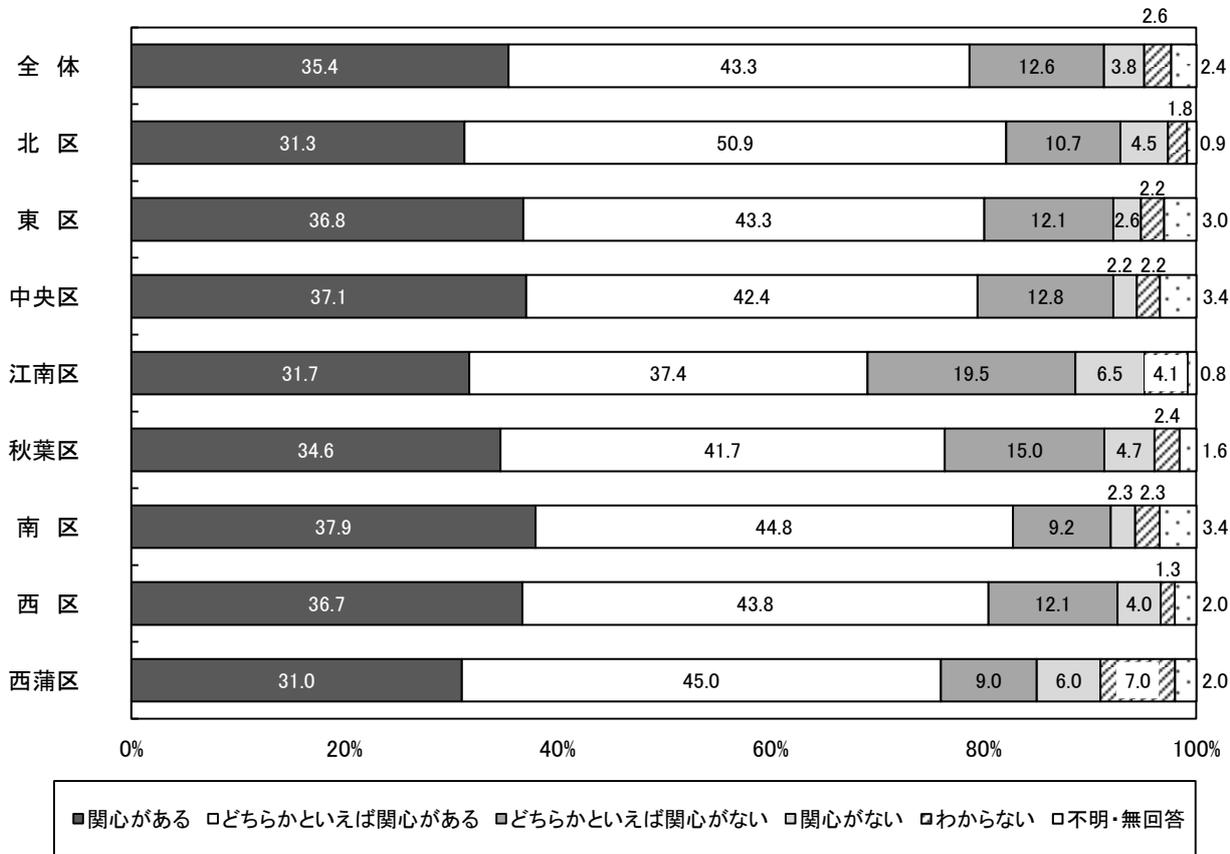
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は、南区（82.8%）で最も高く、江南区（69.1%）では他の地区と比べて低くなっている。

図 2.1-4 「食育」への関心度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

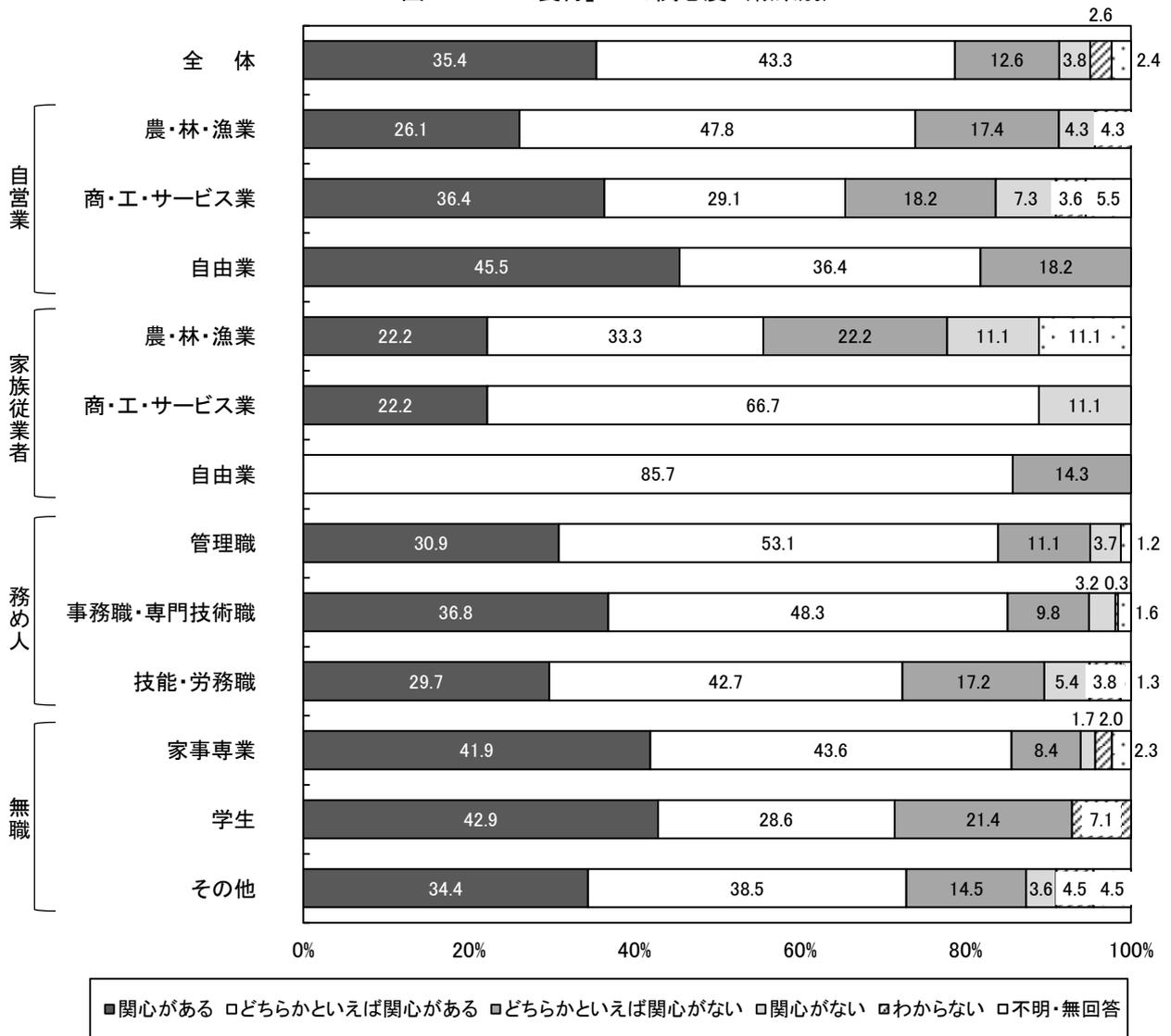
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.1-5 「食育」への関心度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

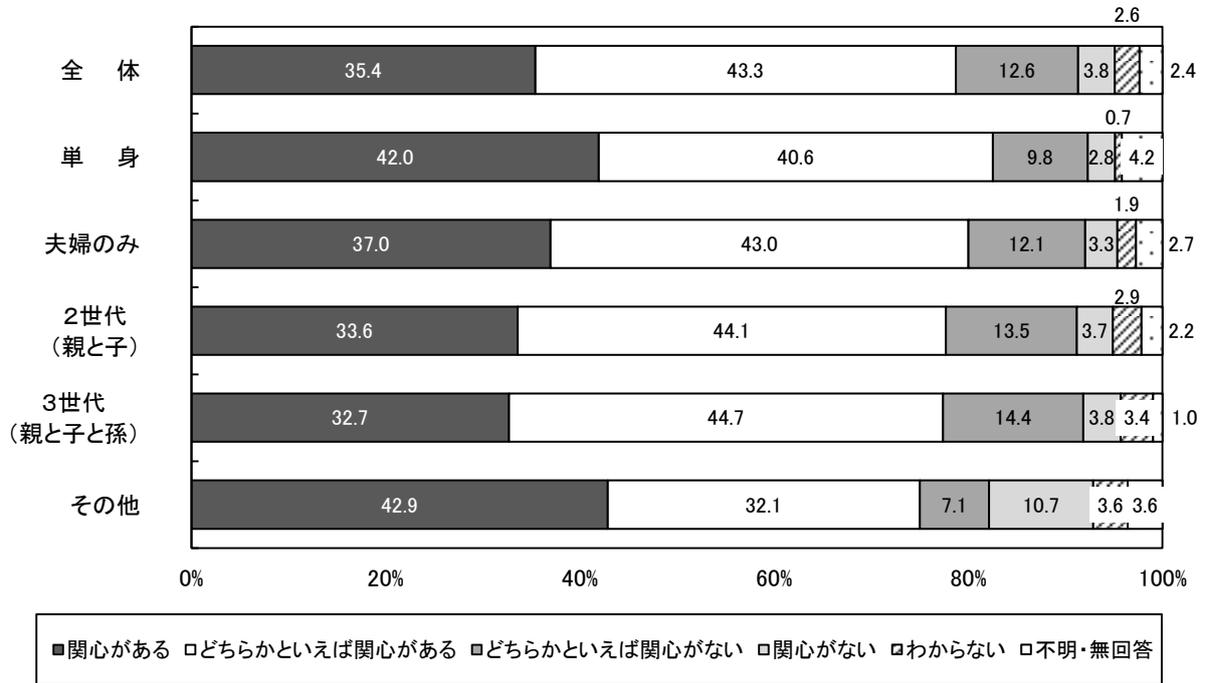
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は、単身（82.5%）で最も高くなっている。

図 2.1-6 「食育」への関心度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

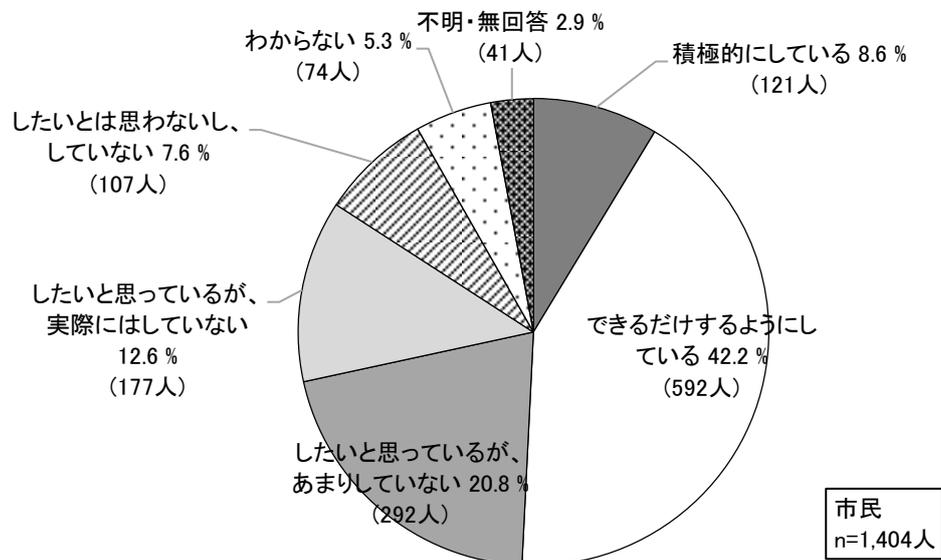
(2) 「食育」の実践度

問8 あなたは、日ごろ、「食育」を何らかの形で実践していますか。(〇は1つだけ)

5割強が「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答

「積極的にしている」(8.6%)、「できるだけするようにしている」(42.2%)と回答した人を合わせた割合は5割強(50.8%)となっている。「したいと思っているが、あまりしていない」(20.8%)、「したいと思っているが、実際にはしていない」(12.6%)と回答した人を合わせた割合が3割強(33.4%)で、「したいとは思わないし、していない」と回答した人は1割弱(7.6%)となっている。

図 2.2 「食育」の実践度



【性別・年齢別】

「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答した人の割合は、70歳以上で高く6割を超えている。また、40歳代以上で、女性の方が男性よりも実践度が高い。20歳代では、女性(24.0%)に比べ男性(60.0%)の実践度が大きく上回った。

図 2.2-2 「食育」の実践度 (年齢別・全体)

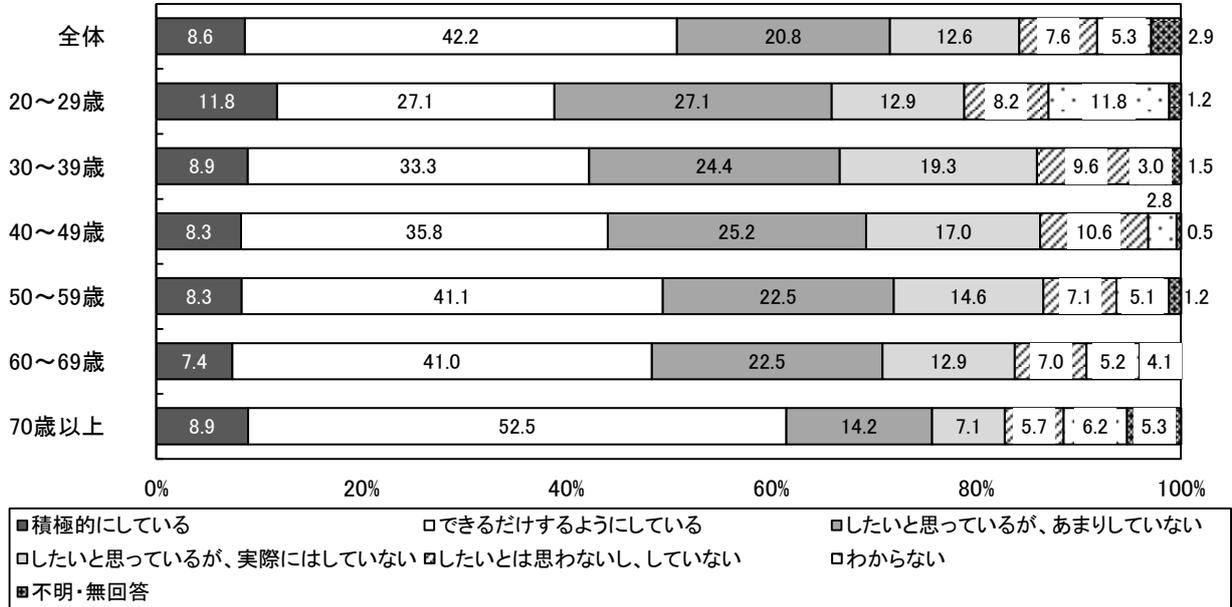
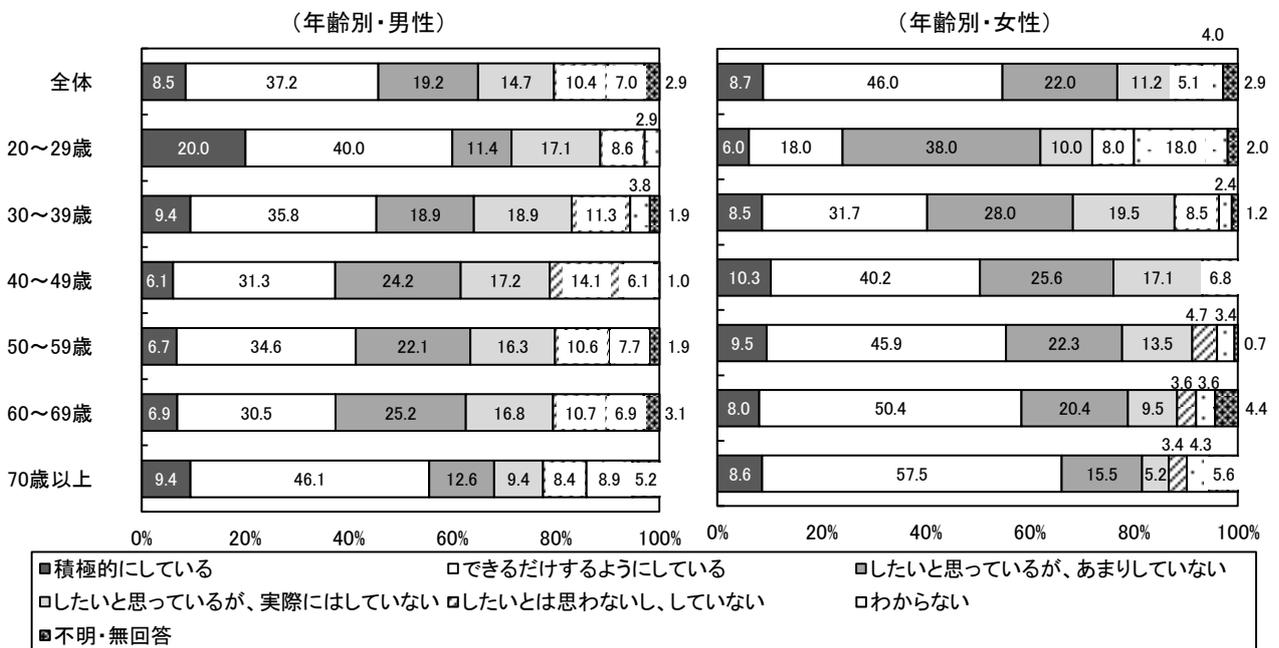


図 2.2-3 「食育」の実践度



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

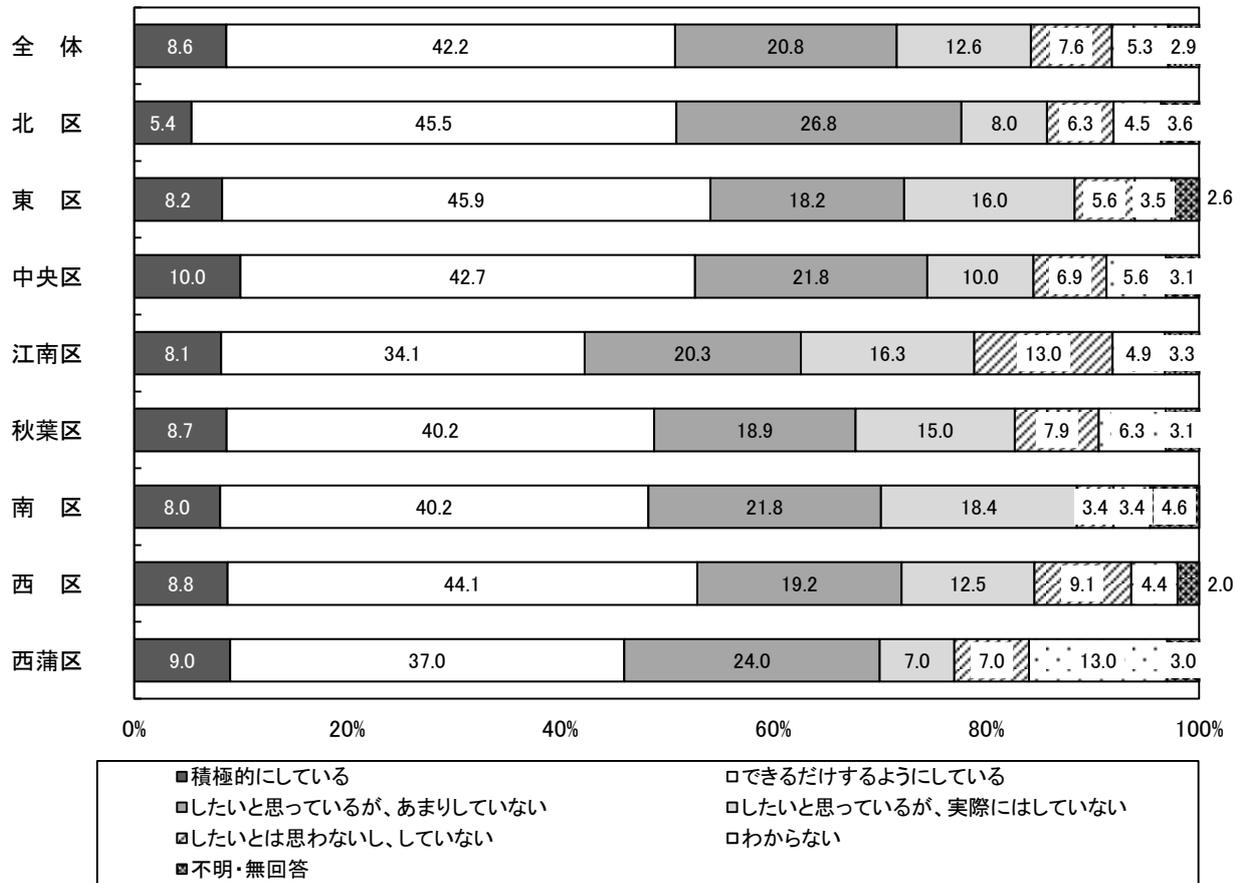
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答した人の割合は、東区（54.1%）で最も高くなっている。江南区（42.3%）では他の地区に比べ低くなっている。

図 2.2-4 「食育」の実践度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	不明・無回答
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

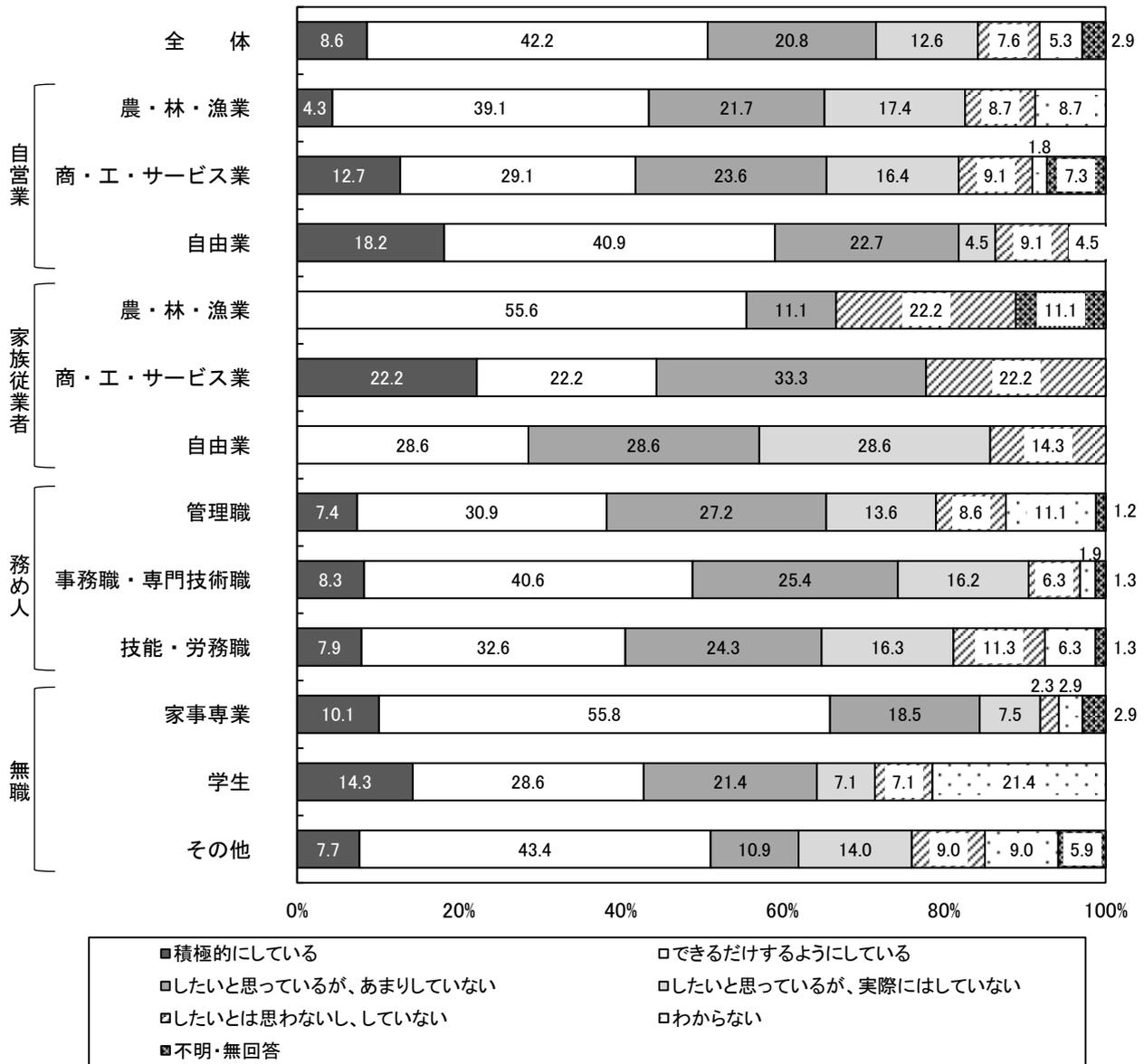
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.2-5 「食育」の実践度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

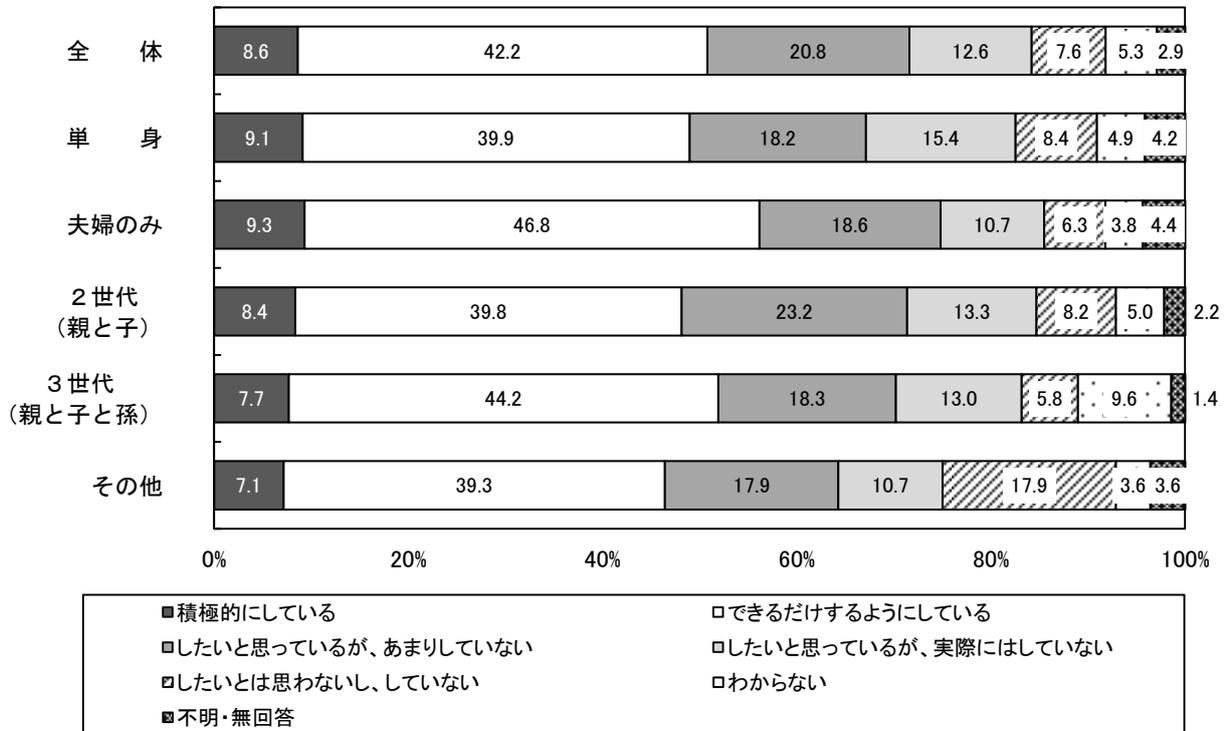
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答した人の割合は、夫婦のみ（56.2%）で最も高くなっている。一方、「したいと思っているが、あまりしていない」「したいと思っているが、実際にはしていない」と回答した人の割合は、2世代（36.5%）で高くなっている。

図 2.2-6 「食育」の実践度（家族構成別）



全 体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	不明・無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

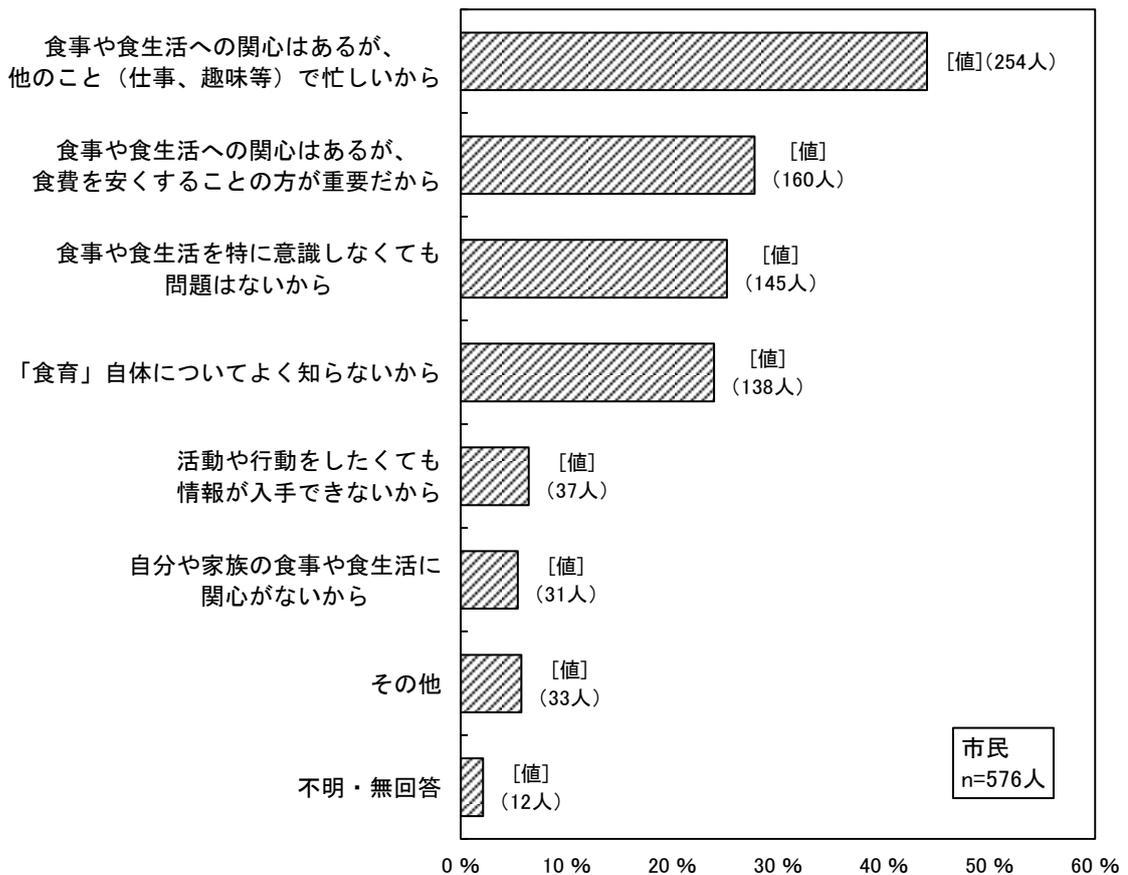
(3) 食育を実践していない理由

問8-1 あなたが「食育」を実践していない理由は何ですか。(〇は3つまで)

「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」が4割強

食育を実践していない理由については、「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」（44.1%）と回答した人が最も多く、以下「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから」（27.8%）、「食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから」（25.2%）、「『食育』自体についてよく知らないから」（24.0%）と続いている。

図 2.3 食育を実践していない理由



【性別・年齢別】

60歳代と70歳以上を除いた年代で、「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」と回答した人の割合が最も高くなっている。60歳代（38.3%）と70歳以上（40.7%）では「食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから」と回答した人が最も多くなっている。

表 1.1 食育を実践していない理由（年齢別・全体）

	対象者	食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから	食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから	食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから	「食育」自体についてよく知らないから	活動や行動をしたくても情報が入手できないから	自分や家族の食事や食生活に関心がないから	その他	無回答
計	576	44.1	27.8	25.2	24.0	6.4	5.4	5.7	2.1
20～29歳	41	73.2	34.1	17.1	22.0	2.4	4.9	4.9	0.0
30～39歳	72	52.8	36.1	13.9	26.4	4.2	6.9	2.8	0.0
40～49歳	115	53.0	30.4	15.7	24.3	4.3	1.7	7.0	2.6
50～59歳	112	59.8	17.9	16.1	19.6	5.4	3.6	6.3	1.8
60～69歳	115	34.8	31.3	38.3	27.8	9.6	4.3	4.3	0.0
70歳以上	118	14.4	24.6	40.7	22.9	9.3	10.2	7.6	5.9
年齢不明	3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0

対象者：人／回答：%

表 1.2 食育を実践していない理由（年齢別・男性）

	対象者	食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから	食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから	食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから	「食育」自体についてよく知らないから	活動や行動をしたくても情報が入手できないから	自分や家族の食事や食生活に関心がないから	その他	無回答
計	272	42.6	31.6	23.9	22.1	7.7	7.4	4.4	1.5
20～29歳	13	84.6	7.7	23.1	23.1	15.4	0.0	0.0	0.0
30～39歳	26	46.2	19.2	23.1	30.8	11.5	0.0	0.0	0.0
40～49歳	55	47.3	18.2	32.7	23.6	3.6	7.3	5.5	3.6
50～59歳	51	56.9	23.5	21.6	11.8	5.9	5.9	3.9	2.0
60～69歳	69	39.1	43.5	20.3	29.0	7.2	11.6	4.3	0.0
70歳以上	58	19.0	48.3	22.4	17.2	10.3	8.6	6.9	1.7
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

表 1.3 食育を実践していない理由（年齢別・女性）

	対象者	食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから	食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから	食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから	「食育」自体についてよく知らないから	活動や行動をしたくても情報が入手できないから	自分や家族の食事や食生活に関心がないから	その他	無回答
計	294	45.9	33.0	24.1	19.7	5.4	3.1	7.1	2.4
20～29歳	28	67.9	39.3	21.4	21.4	3.6	0.0	7.1	0.0
30～39歳	46	56.5	39.1	28.3	10.9	6.5	4.3	4.3	0.0
40～49歳	58	60.3	37.9	15.5	13.8	1.7	0.0	8.6	0.0
50～59歳	60	61.7	23.3	18.3	10.0	3.3	1.7	8.3	1.7
60～69歳	46	28.3	34.8	39.1	30.4	6.5	0.0	4.3	0.0
70歳以上	56	8.9	28.6	25.0	33.9	10.7	10.7	8.9	10.7
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

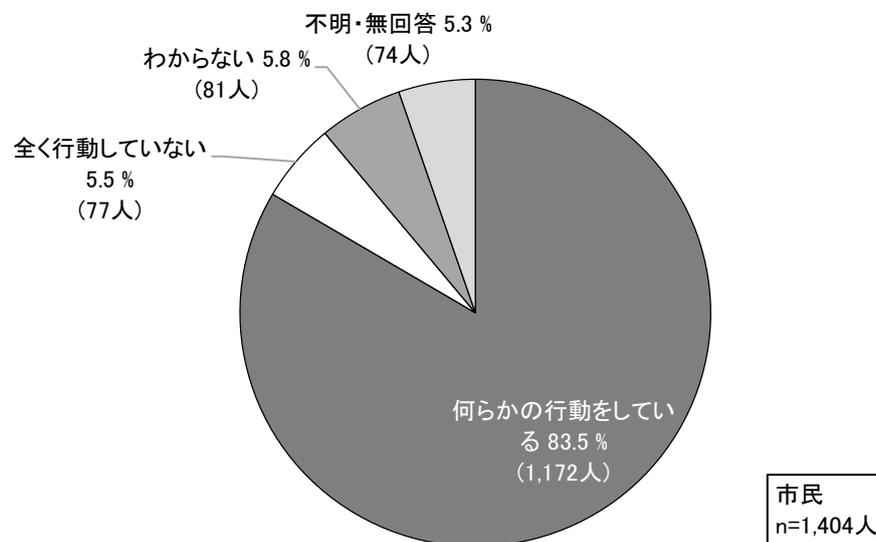
(4) 食べ物を無駄にしないための行動

問9 食べ物を無駄にしないように、あなたは何らかの行動をしていますか。
(食材を買いすぎない、作りすぎない、残さず食べる、冷凍保存を活用する、賞味期限を過ぎてもすぐに捨てずに自分で食べられるか判断するなど) (〇は1つだけ)

8割強が「何らかの行動をしている」と回答

「何らかの行動をしている」と回答した人の割合は8割強(83.5%)となっている。「全く行動していない」と回答した人の割合は1割弱(5.5%)となっている。

図 2.4 食べ物を無駄にしないための行動



【性別・年齢別】

「何らかの行動をしている」と回答した人の割合は、50歳代で最も高くなり、その後年齢が上がるにつれて低くなる傾向が見られる。また、20歳代を除いた各年代で、女性の方が男性よりも実践度が高くなっている。

図 2.4-2 食べ物を無駄にしないための行動（年齢別・全体）

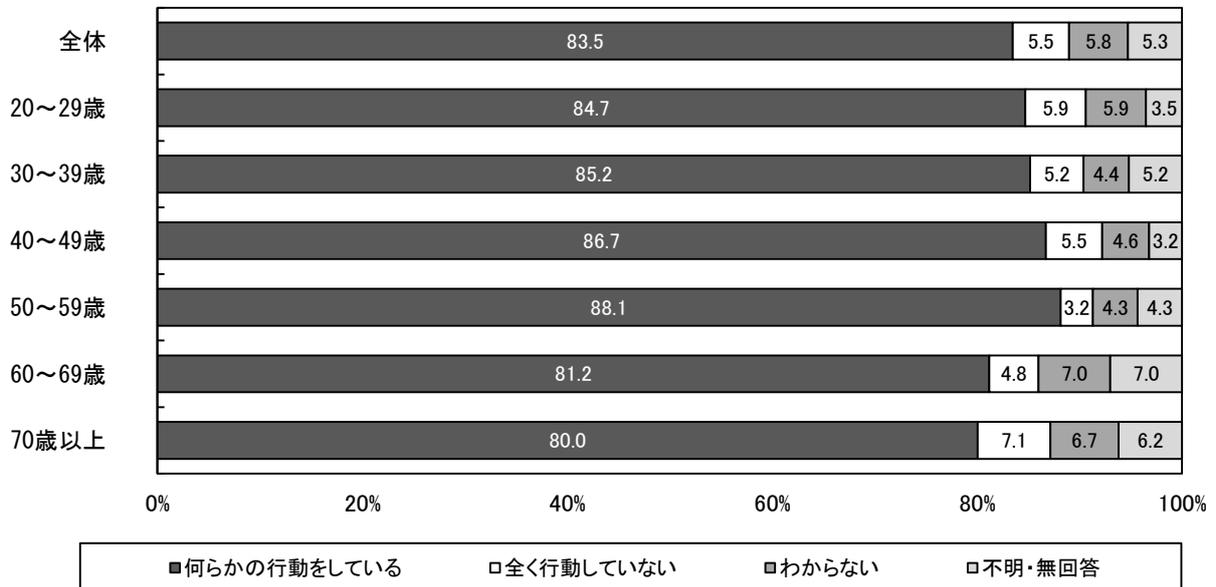
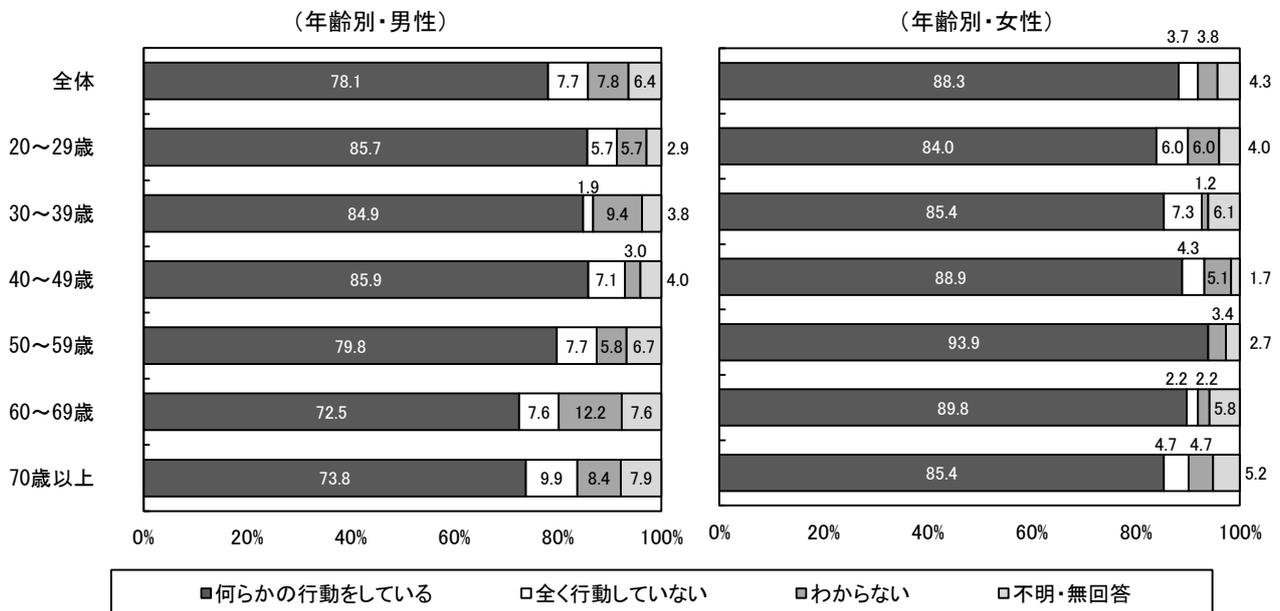


図 2.4-3 食べ物を無駄にしないための行動



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全 体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男 性	613	35	53	99	104	131	191	0
女 性	767	50	82	117	148	137	233	0

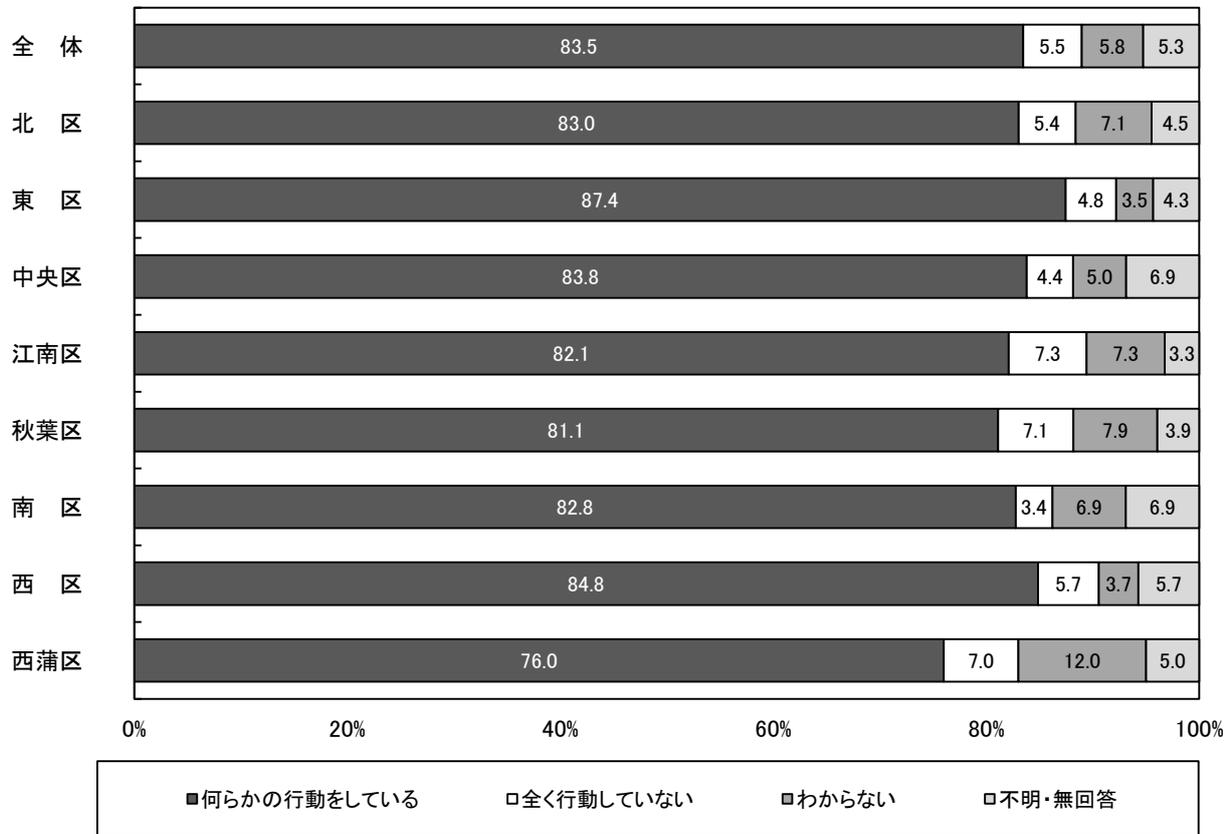
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「何らかの行動をしている」と回答した人の割合は、東区（87.4%）で最も高く、9割弱となっている。西蒲区（76.0%）では他の地区に比べ低くなっている。

図 2.4-4 食べ物を無駄にしないための行動（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

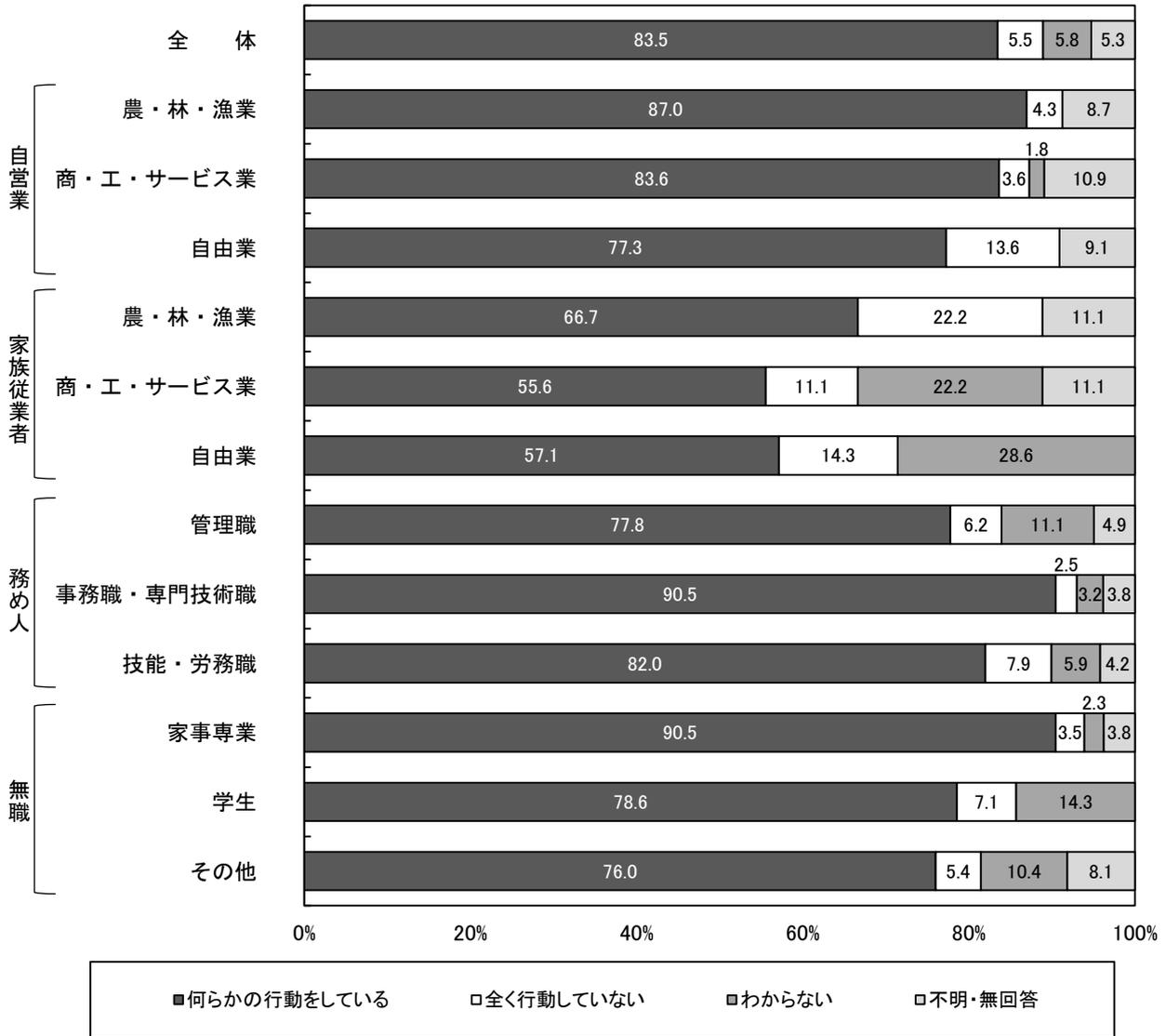
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.4-5 食べ物を無駄にしないための行動（職業別）



全体	自営業			家族従業者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

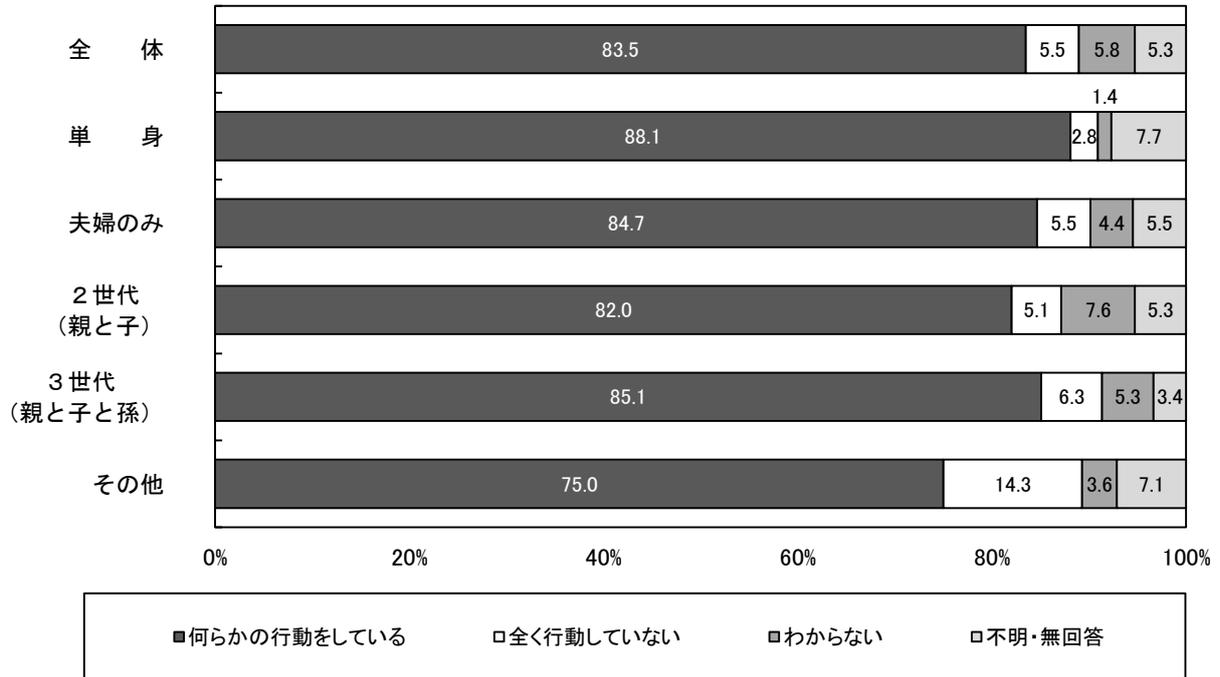
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「何らかの行動をしている」と回答した人の割合は、単身（88.1%）で最も高くなっている。

図 2.4-6 食べ物を無駄にしないための行動（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

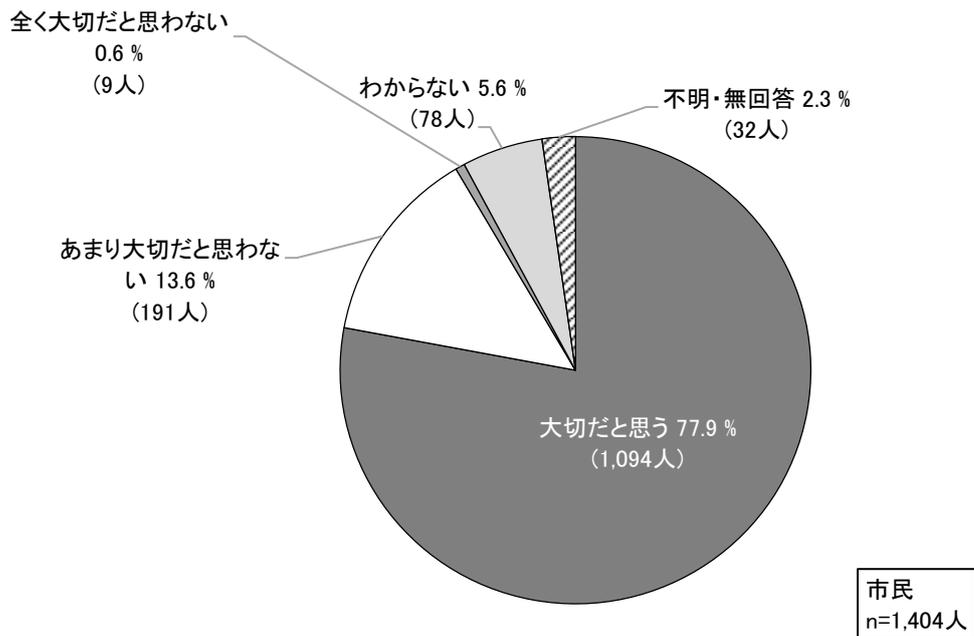
(5) 伝統的な料理や作法の大切さ

問10 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法が大切だと思いますか。(○は1つだけ)

8割弱が「大切だと思う」と回答

「大切だと思う」と回答した人の割合は8割弱(77.9%)となっている。「あまり大切だと思わない」(13.6%)、「全く大切だと思わない」(0.6%)と回答した人を合わせた割合が1割強(14.2%)となっている。

図 2.5 伝統的な料理や作法の大切さ



【性別・年齢別】

「大切だと思う」と回答した人の割合は、30歳代（84.4%）で最も高く、8割強を占めている。60歳代以上は他の年齢と比べて低くなっている。また、50歳代を除き、男性より女性で「大切だと思う」と答えた割合が高い。

図 2.5-2 伝統的な料理や作法の大切さ（年齢別・全体）

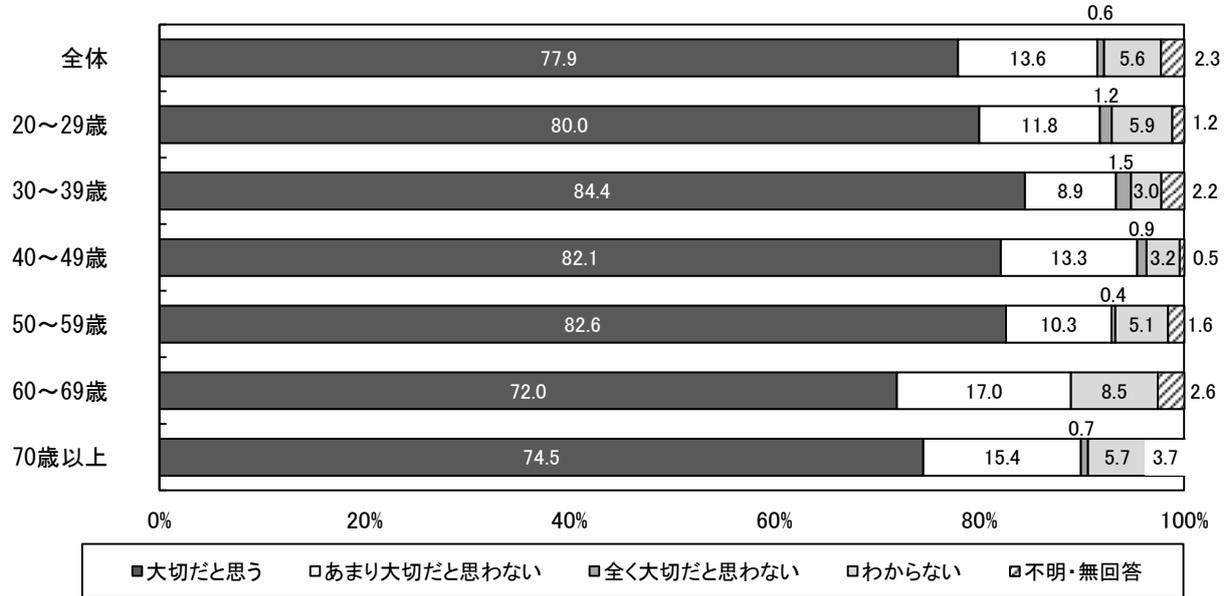
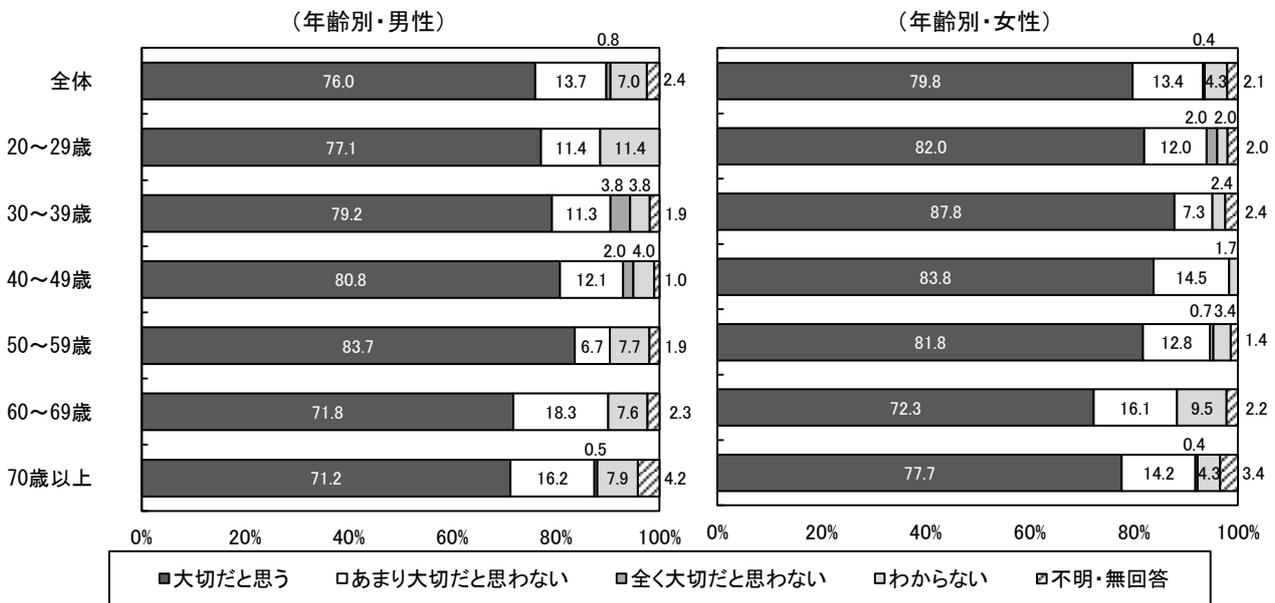


図 2.5-3 伝統的な料理や作法の大切さ



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

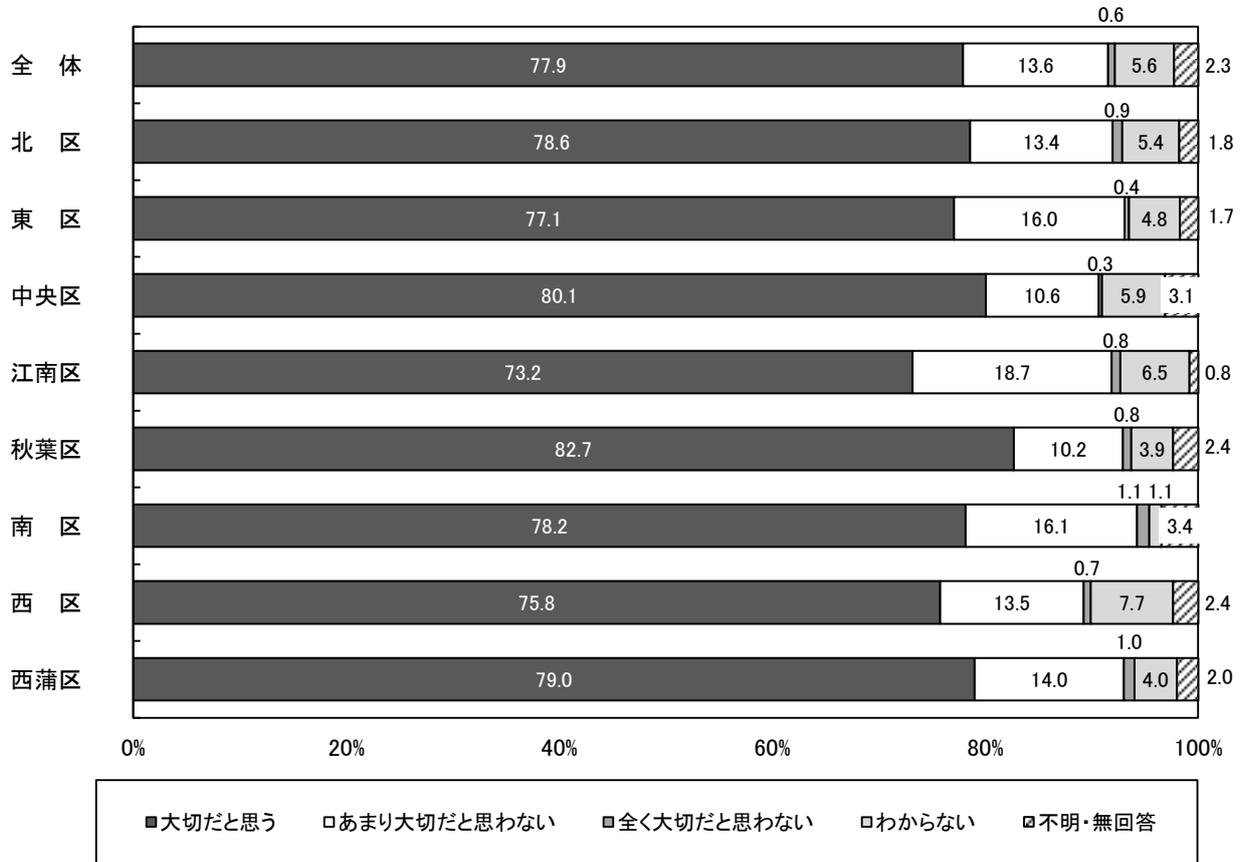
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「大切だと思う」と回答した人の割合は、秋葉区（82.7%）で最も高く、8割強となっている。江南区（73.2%）では他の地区に比べ低くなっている。

図 2.5-4 伝統的な料理や作法の大切さ（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

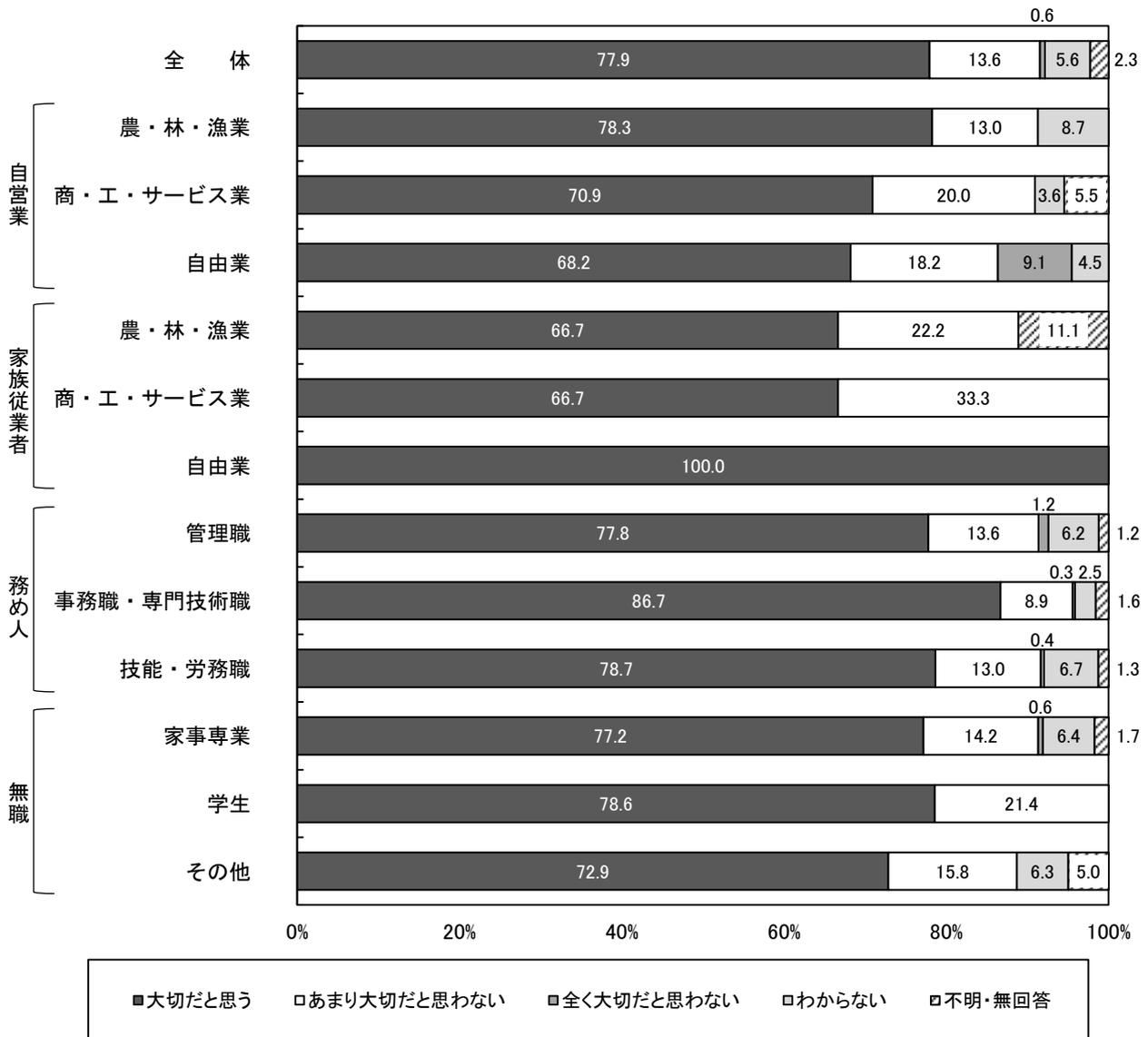
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.5-5 伝統的な料理や作法の大切さ（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

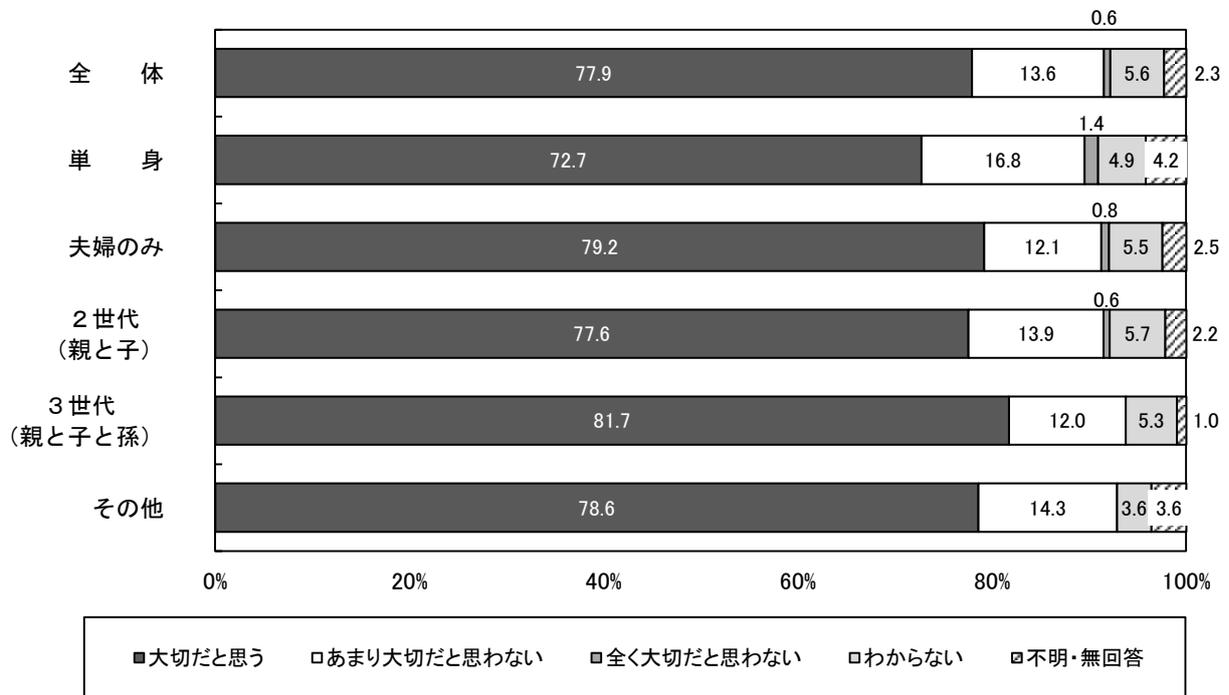
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「大切だと思う」と回答した人の割合は、3世代（親と子と孫）（81.7%）で最も高くなっている。一方、単身（72.7%）ではやや低くなっている。

図 2.5-6 伝統的な料理や作法の大切さ（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

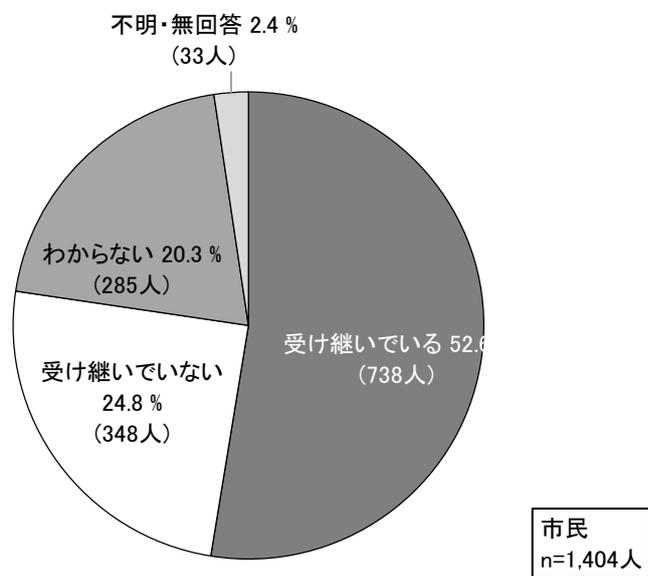
(6) 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承

問11 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を受け継いでいますか。(○は1つだけ)

5割強が「受け継いでいる」と回答

「受け継いでいる」と回答した人の割合は5割強(52.6%)となっている。「受け継いでいない」と回答した人の割合が3割弱(24.8%)で、「わからない」と回答した人は約2割(20.3%)となっている。

図 2.6 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承



【性別・年齢別】

「受け継いでいる」と回答した人の割合は、70歳以上で最も多く、約6割を占めている。一方、「受け継いでいない」は40歳代で約3割、「わからない」は20歳代で3割強となっている。

また、各年代とも、女性の方が男性よりも「受け継いでいる」割合が高くなっており、女性は全ての年代で「受け継いでいる」が5割を上回っている。

図 2.6-2 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（年齢別・全体）

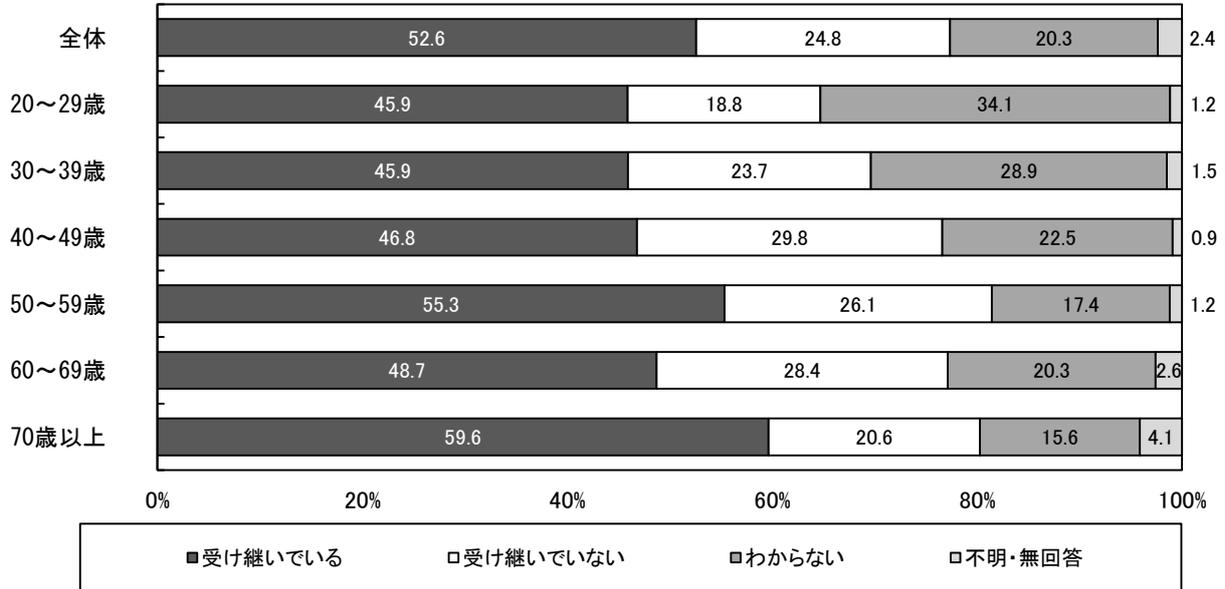
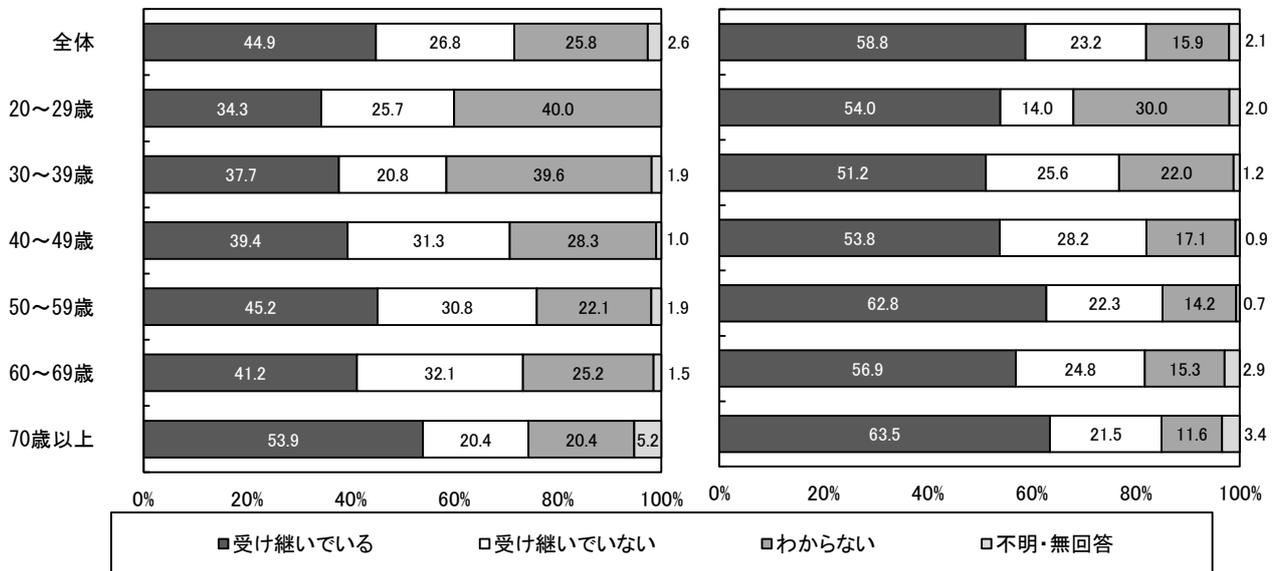


図 2.6-3 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

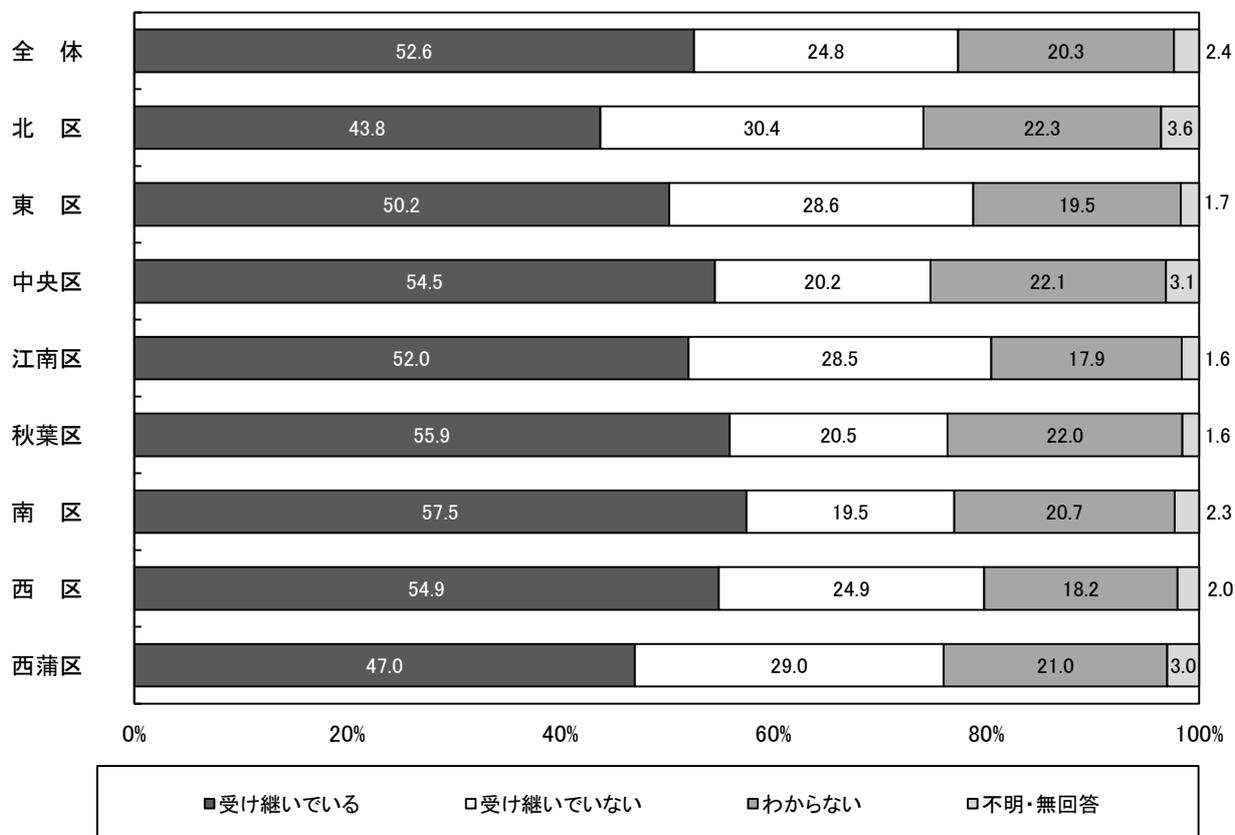
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「受け継いでいる」と回答した人の割合は、南区（57.5%）で最も高く、6割弱となっている。北区（43.8%）、西蒲区（47.0%）では他の地区に比べ低くなっている。

図 2.6-4 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

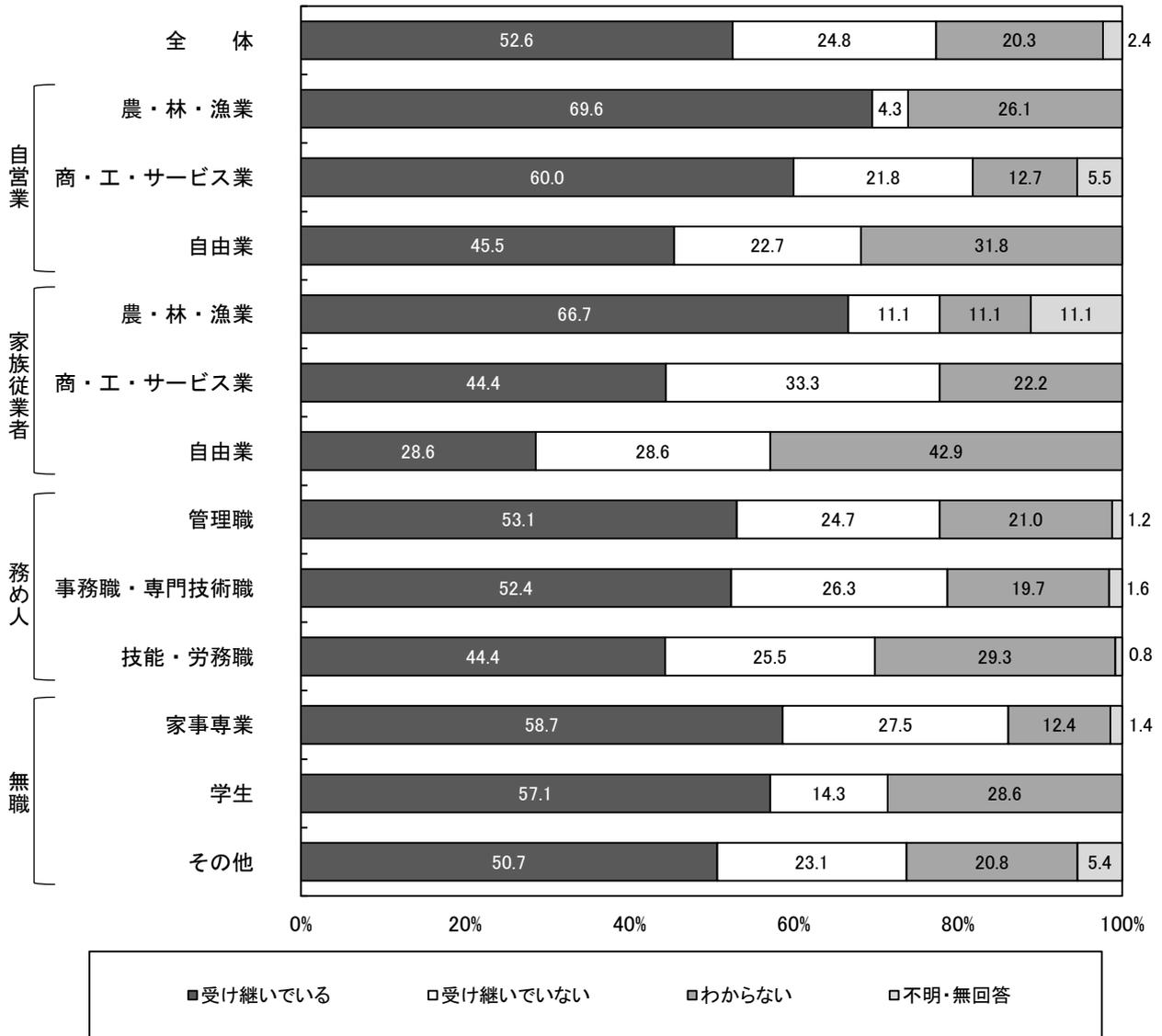
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.6-5 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（職業別）



全体	自営業			家族従業者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

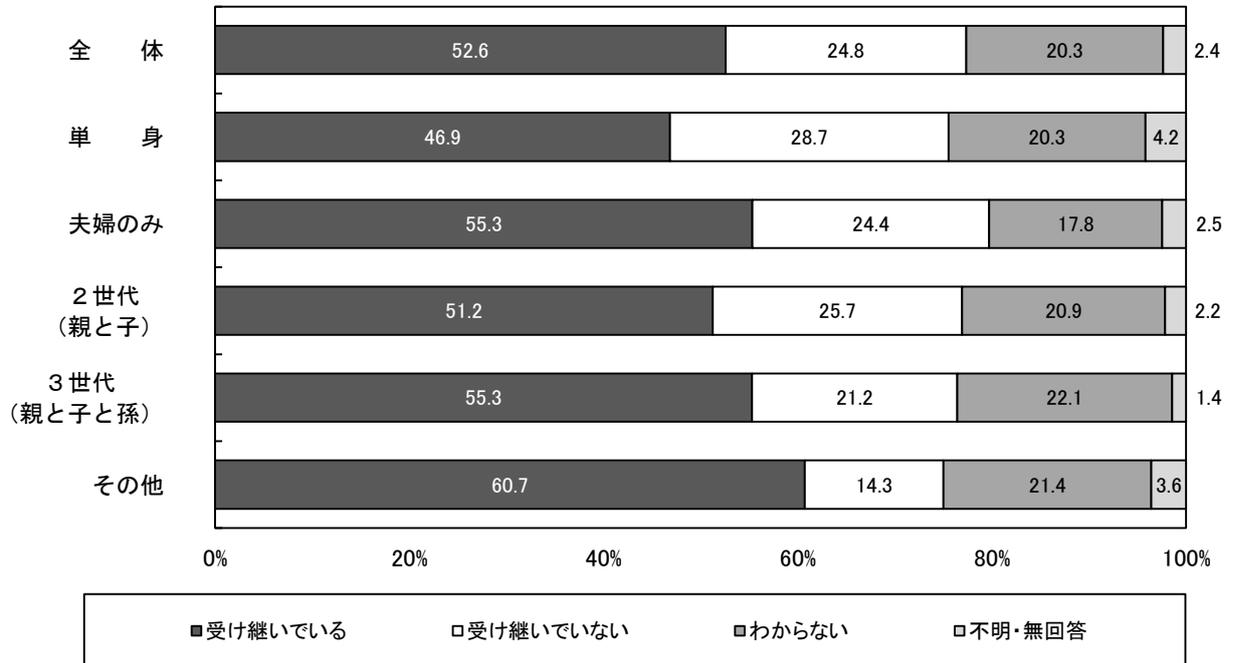
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「受け継いでいる」と回答した人の割合は、単身を除く家族構成で5割を超えている。一方、「わからない」と回答した人の割合は、3世代（親と子と孫）（22.1%）で高くなっている。

図 2.6-6 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

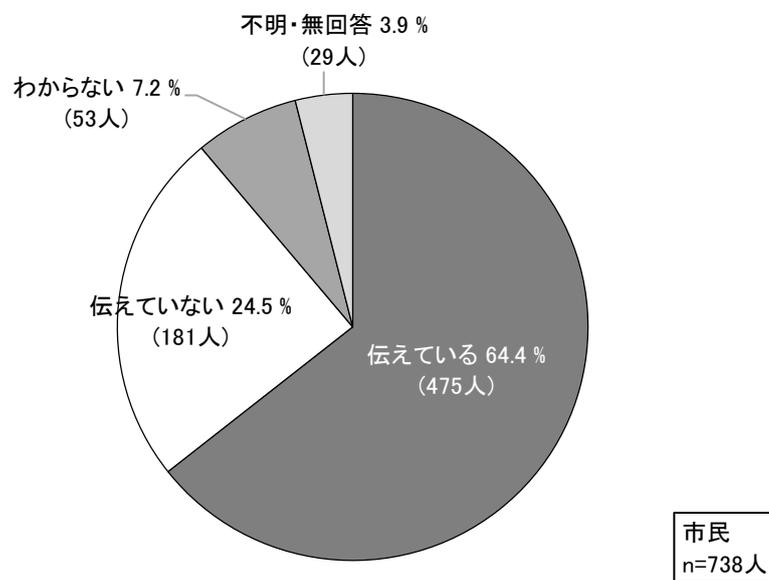
(7) 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承

問11-1 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を地域や次世代（子どもや孫）に対して伝えていますか。
(〇は1つだけ)

6割強が「伝えている」と回答

「伝えている」と回答した人の割合は6割強（64.4%）となっている。「伝えていない」と回答した人の割合が3割弱（24.5%）で、「わからない」と回答した人は1割弱（7.2%）となっている。

図 2.7 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承



【性別・年齢別】

「伝えている」と回答した人の割合は、70歳代（71.2%）で最も高くなっているが、20歳代（10.3%）では他の年代に比べかなり低くなっている。一方、「伝えていない」は20歳代（43.6%）で4割強と、他の年代に比べて高くなっている。

性別では、「伝えている」と回答した人の割合は、30歳代と70歳以上で男性の方が女性よりも高く、それ以外の年代では、女性の方が男性よりも高くなっている。

図 2.7-2 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（年齢別・全体）

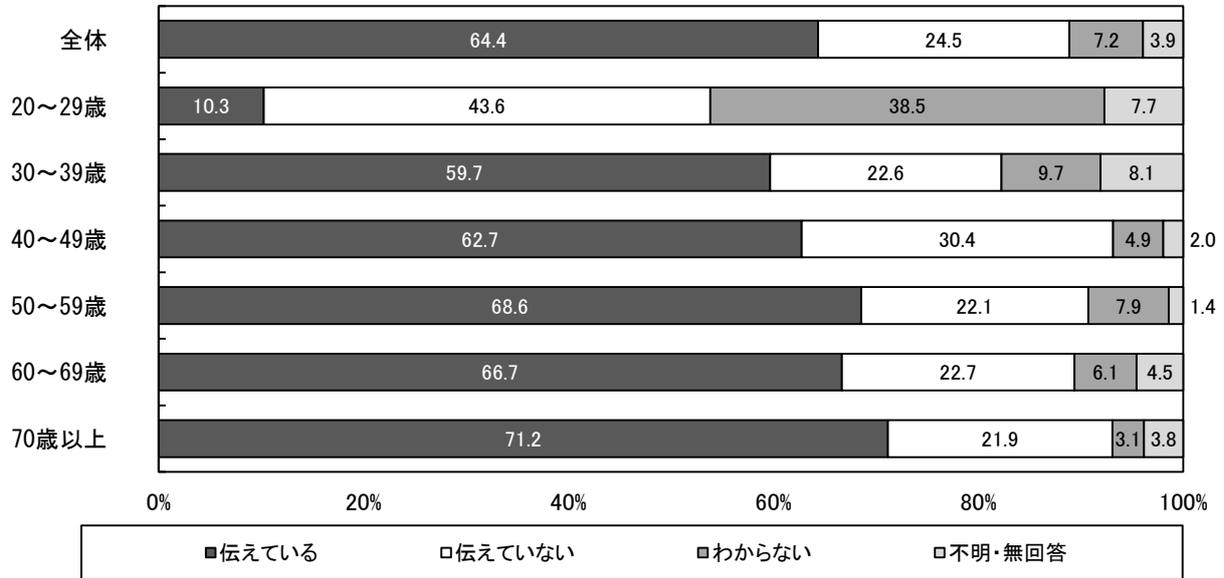
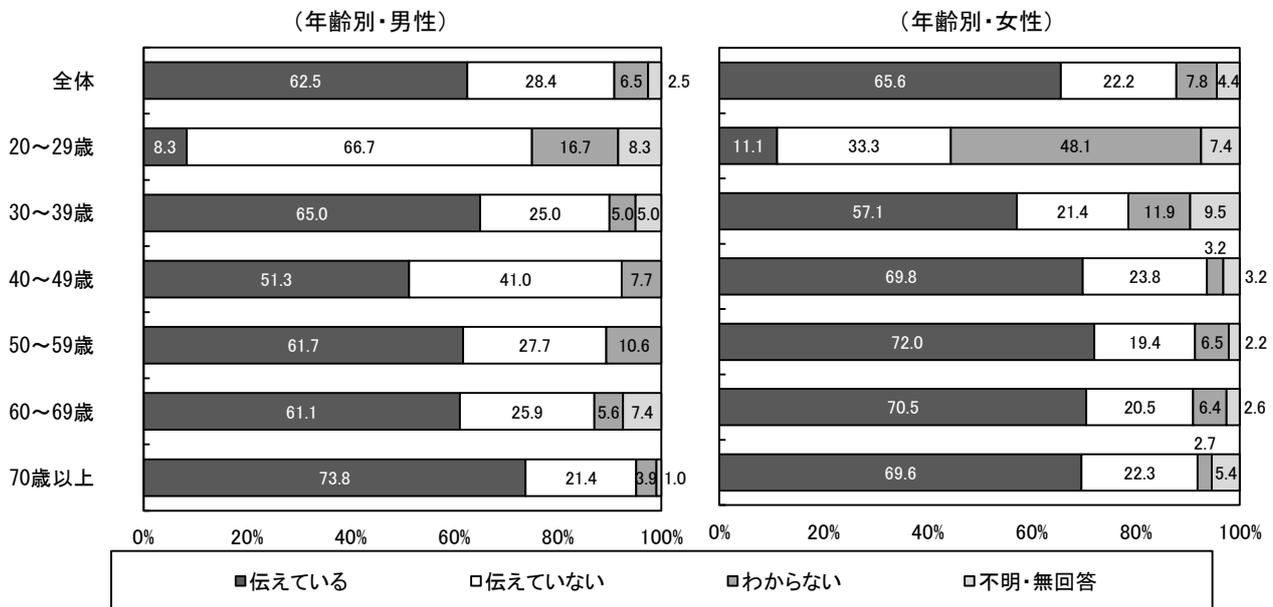


図 2.7-3 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	738	39	62	102	140	132	260	3
男性	275	12	20	39	47	54	103	0
女性	451	27	42	63	93	78	148	0

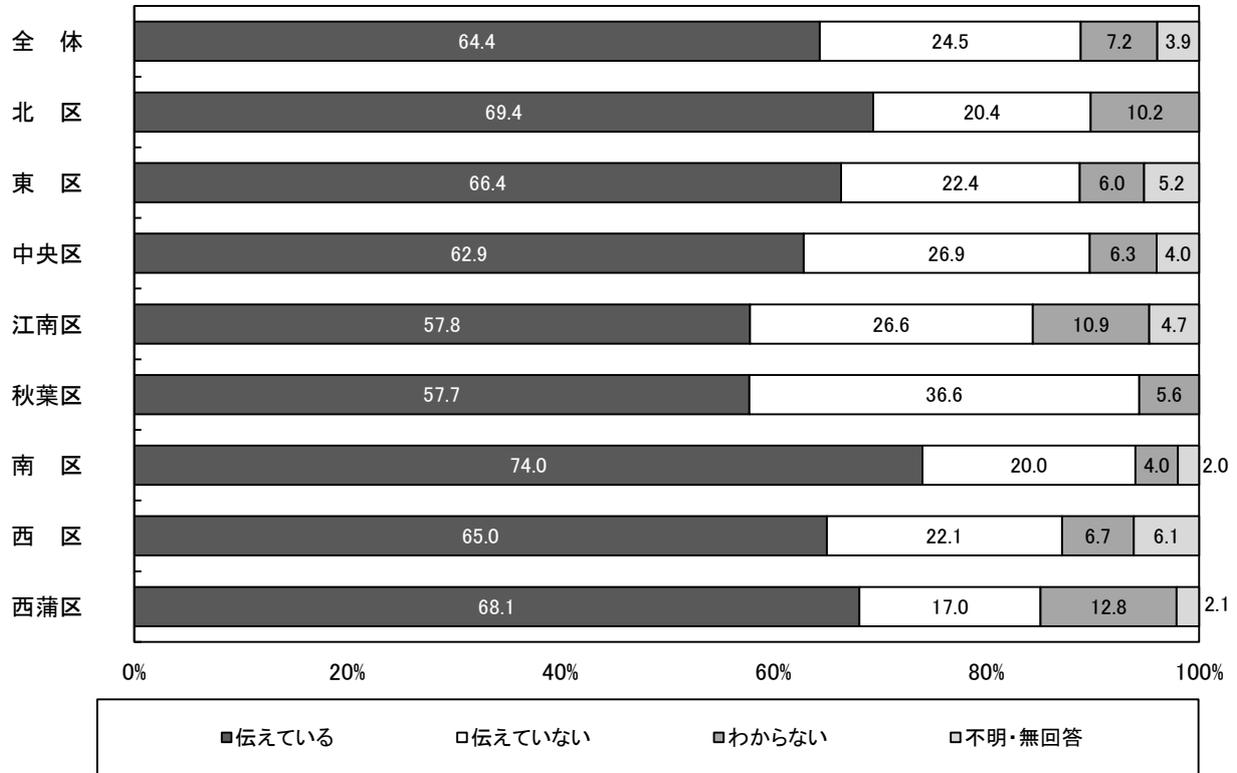
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「伝えている」と回答した人の割合は、南区（74.0%）で最も高く、次いで北区（69.4%）となっている。一方、「伝えていない」は秋葉区（36.6%）で他の地区に比べ高くなっている。

図 2.7-4 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
738	49	116	175	64	71	50	163	47	3

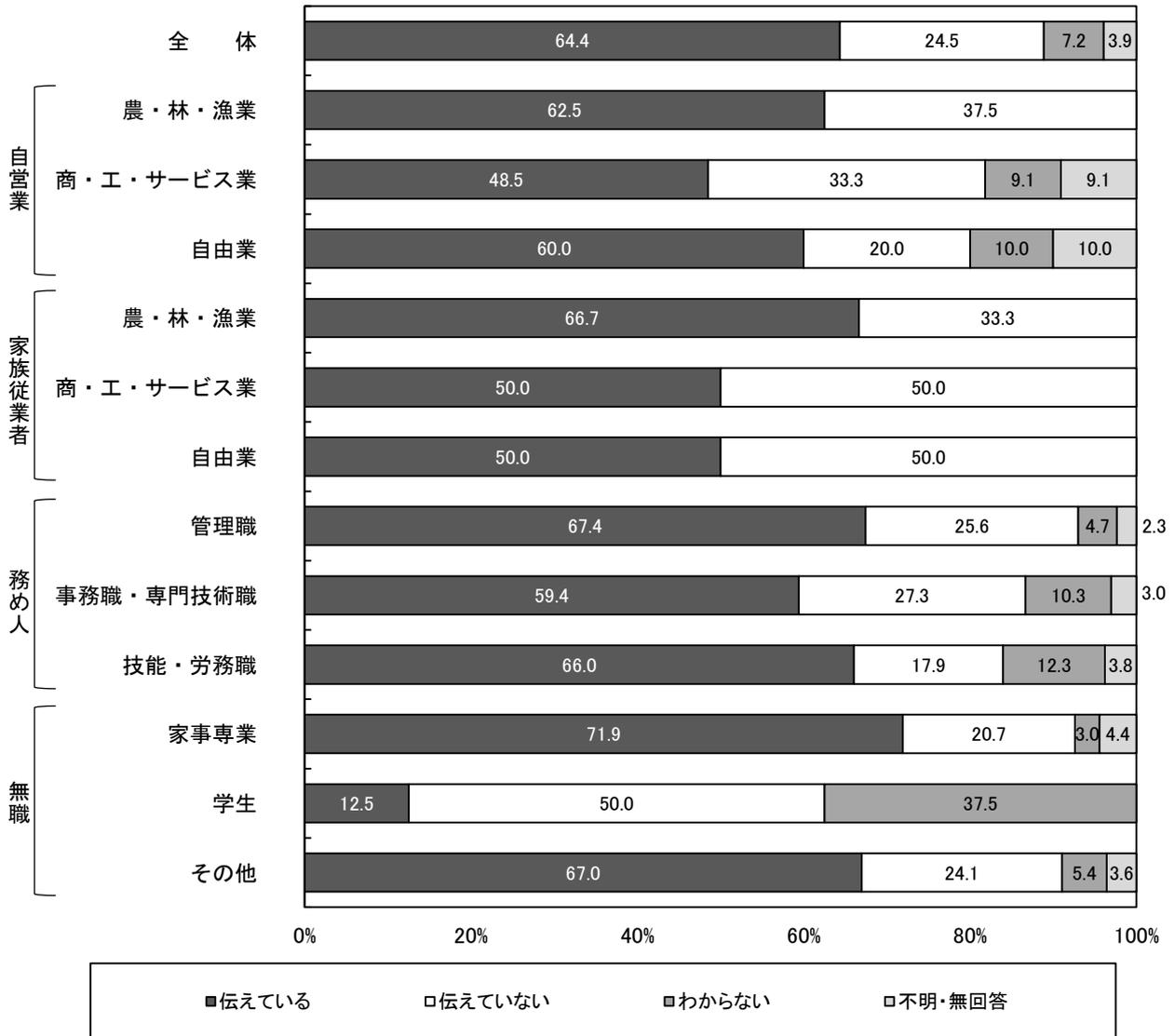
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.7-5 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
738	16	33	10	6	4	2

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
43	165	106	203	8	112	30

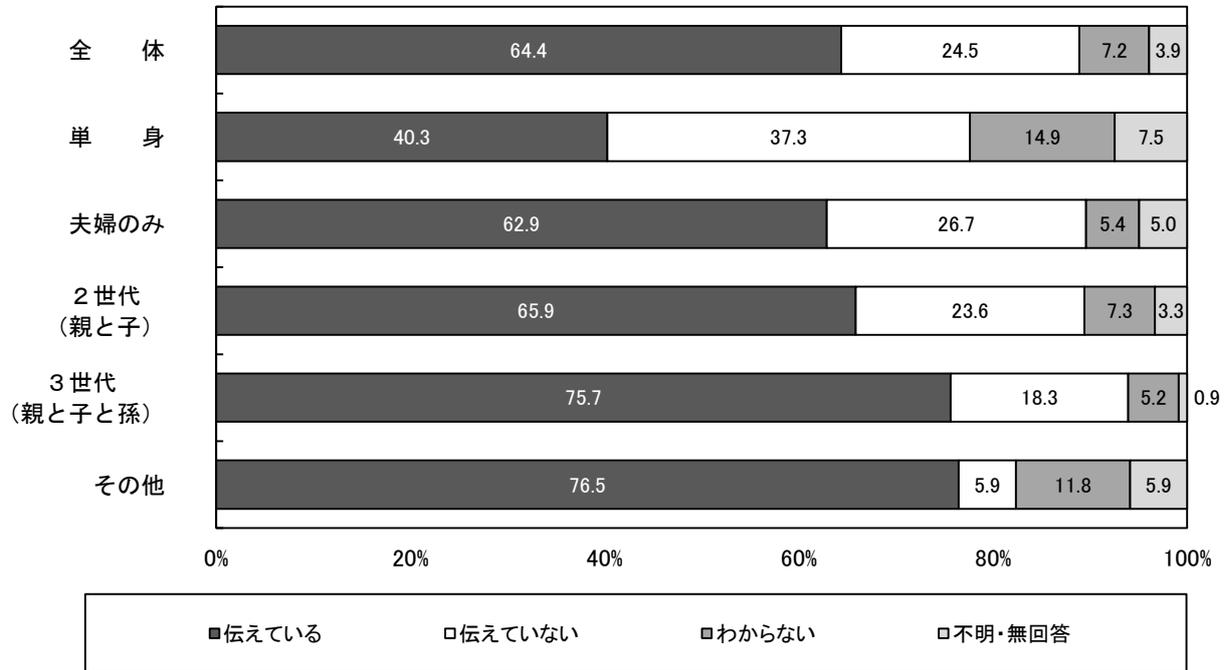
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「伝えている」と回答した人の割合は、その他（76.5%）や3世代（親と子と孫）（75.7%）で高くなっている。一方、「伝えていない」と回答した人の割合は、単身（37.3%）で最も高くなっている。

図 2.7-6 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
738	67	202	331	115	17	6

(人)

※無回答者のグラフは省略した。